

人口動態等に関する報告書

【令和4年度】



令和5年8月
都市政策課

目次

I	人口及び世帯	1
1	人口	1
2	世帯数及び1世帯当たり人員	2
3	年齢別人口	4
4	在留外国人の人口及び世帯数	14
II	人口動態	17
1	人口増減	17
2	自然動態	18
3	社会動態	20
4	単身世帯の社会動態	22
5	二人世帯の社会動態	25
6	三人以上世帯の社会動態	28
7	年齢別及び転入元・転出先別の移動数	32
III	ファミリー世帯の社会動態	37
1	社会動態	37
2	転入元・転出先別の移動数	40
3	町丁目別移動	41
IV	尼崎市の人口の動向—令和2年国勢調査を中心に	48
1	人口構成の変化と少子化	48
2	単身世帯及び高齢単身世帯の動向	52
3	昼夜間人口比率	53

※本書の利用にあたって

➤ 尼崎市の6地区は下図のとおりである。



【参考】 6地区にある鉄道駅

- ・中央：〔阪神〕 出屋敷・尼崎・大物
- ・小田：〔J R〕 尼崎 〔阪神〕 杭瀬
- ・大庄：〔阪神〕 武庫川・尼崎センタープール前
- ・立花：〔阪急〕 塚口 〔J R〕 立花
- ・武庫：〔阪急〕 武庫之荘
- ・園田：〔阪急〕 園田 〔J R〕 塚口・猪名寺

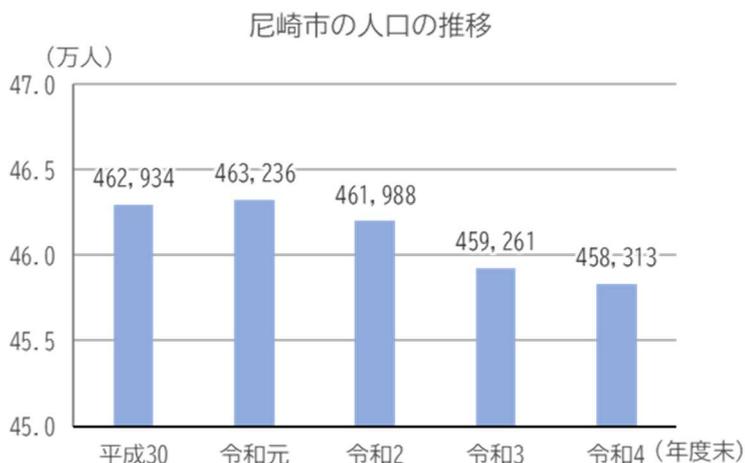
➤ 本報告書掲載の図表では、人口減少数、転出数、転出超過数等にはマイナスの符号を付した。

I 人口及び世帯

1 人口

(1) 全市

令和4年度末（令和5年3月31日現在。以下、同様。）における尼崎市の人口は、3年連続で減少し、458,313人となった。最近5年間の推移をみると、平成30年度末より1.0%減少（▲4,621人）した。

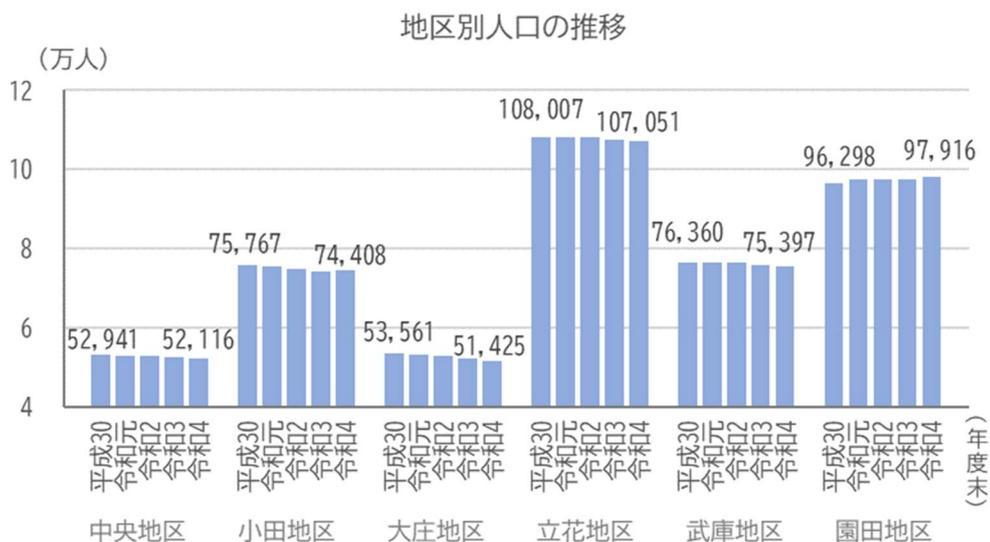


資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

(2) 地区別

令和4年度末における人口は、立花地区（107,051人）、園田地区（97,916人）、武庫地区（75,397人）の順で多く、北部3地区が南部3地区より多い。また、前年度末と比べて、園田地区が0.5%増加（450人）、小田地区が0.3%増加（201人）となった。

最近5年間で人口が増加したのは園田地区で、平成30年度末より1.7%増加（1,618人）した。ほか5地区は減少し、このうち大庄地区が4.0%減少（▲2,136人）と、減少率が最も高い。



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

人口（各年度末現在） （単位：人）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	変化（H30-R4年度）	
						実数	増加率
全 市	462,934	463,236	461,988	459,261	458,313	▲ 4,621	▲ 1.0%
中央地区	52,941	52,847	52,752	52,346	52,116	▲ 825	▲ 1.6%
小田地区	75,767	75,378	74,787	74,207	74,408	▲ 1,359	▲ 1.8%
大庄地区	53,561	53,147	52,891	52,003	51,425	▲ 2,136	▲ 4.0%
立花地区	108,007	108,129	107,996	107,473	107,051	▲ 956	▲ 0.9%
武庫地区	76,360	76,501	76,218	75,766	75,397	▲ 963	▲ 1.3%
園田地区	96,298	97,234	97,344	97,466	97,916	1,618	1.7%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

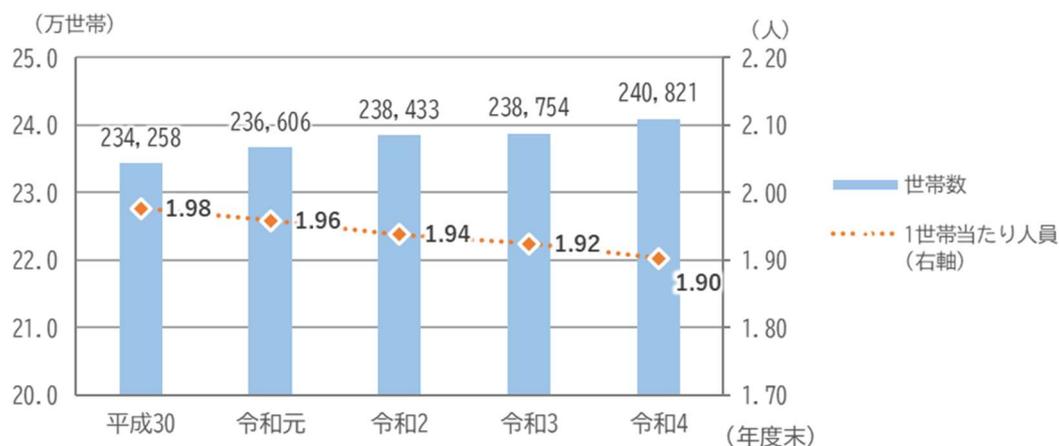
2 世帯数及び1世帯当たり人員

(1) 全市

令和4年度末における尼崎市の世帯数は240,821世帯である。世帯数は増加が続いており、平成30年度末に比べ2.8%増加（6,563世帯）した。

1世帯当たり人員は1.90人となり、平成30年度末より0.08人減少している。

尼崎市の世帯数及び1世帯当たり人員の推移



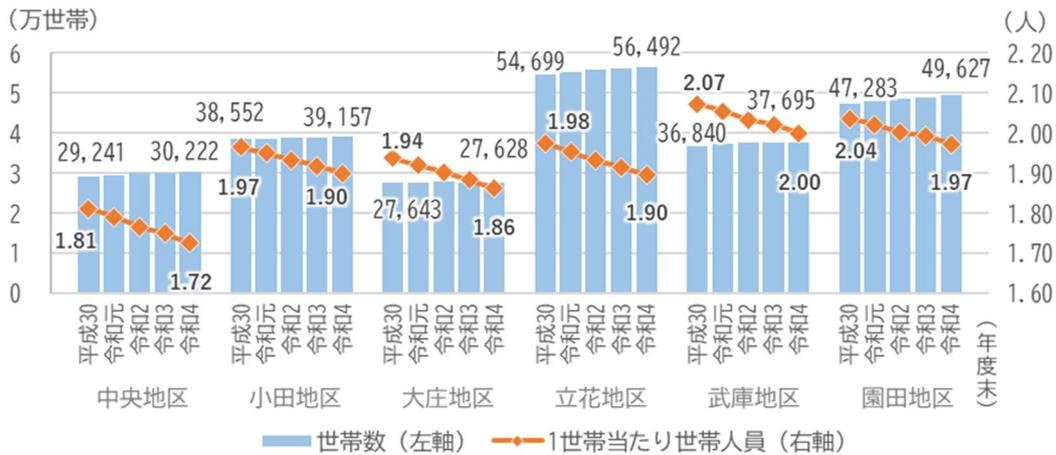
資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

(2) 地区別

令和4年度末における世帯数は、立花地区（56,492世帯）、園田地区（49,627世帯）、小田地区（39,157世帯）の順が多い。また、大庄地区をのぞく5地区で、平成30年度末より世帯数が増加した。増加率が最も高いのは園田地区で、5.0%増加（2,344世帯）である。

1世帯当たり人員は、6地区とも減少し、令和4年度末において、2.00人以上となったのは武庫地区（2.00人）のみである。

地区別世帯数及び1世帯当たり人員の推移



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

世帯数（各年度末現在）

（単位：世帯）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	変化（H30-R4年度）	
						実数	増加率
全 市	234,258	236,606	238,433	238,754	240,821	6,563	2.8%
中央地区	29,241	29,534	29,864	29,937	30,222	981	3.4%
小田地区	38,552	38,665	38,698	38,681	39,157	605	1.6%
大庄地区	27,643	27,697	27,789	27,625	27,628	▲ 15	▲ 0.1%
立花地区	54,699	55,359	55,928	56,116	56,492	1,793	3.3%
武庫地区	36,840	37,238	37,499	37,498	37,695	855	2.3%
園田地区	47,283	48,113	48,655	48,897	49,627	2,344	5.0%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

1世帯当たり人員（各年度末現在）

（単位：人）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	変化 (H30-R4年度)
全 市	1.98	1.96	1.94	1.92	1.90	▲ 0.08
中央地区	1.81	1.79	1.77	1.75	1.72	▲ 0.09
小田地区	1.97	1.95	1.93	1.92	1.90	▲ 0.07
大庄地区	1.94	1.92	1.90	1.88	1.86	▲ 0.08
立花地区	1.98	1.95	1.93	1.92	1.90	▲ 0.08
武庫地区	2.07	2.05	2.03	2.02	2.00	▲ 0.07
園田地区	2.04	2.02	2.00	1.99	1.97	▲ 0.06

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

3 年齢別人口

(1) 年齢3区分別人口

①全市

令和4年度末における0～14歳人口（年少人口）は51,575人、15～64歳人口（生産年齢人口）は280,867人、65歳以上人口（老年人口）は125,871人である。

平成30年度末と比べると、0～14歳人口は4.5%減少（▲2,455人）、15～64歳人口は0.2%減少（▲627人）、65歳以上人口は、1.2%減少（▲1,539人）となった。



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

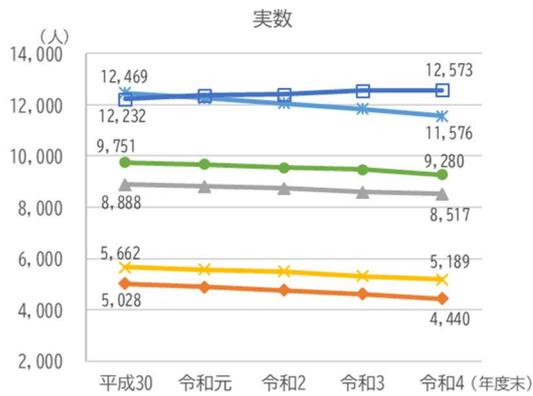
②地区別

令和4年度末の0～14歳人口は、園田地区（12,573人）、立花地区（11,576人）、武庫地区（9,280人）の順が多い。園田地区は、令和元年に立花地区を上回り、最多となった後も増加が続き、平成30年度末と比べて2.8%の増加（341人）となった。ほか5地区では減少し、減少率は、平成30年度末比で中央地区11.7%（▲588人）、大庄地区8.4%（▲473人）、立花地区7.2%（▲893人）の順で高くなっている。

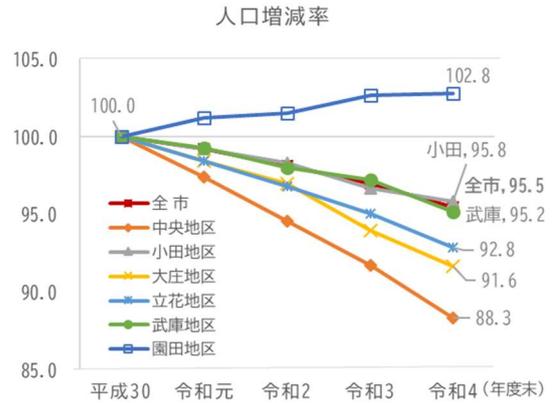
次に、15～64歳人口をみると、令和4年度末は、立花地区（66,241人）、園田地区（61,959人）、武庫地区（46,229人）の順が多い。平成30年度末と比べると、園田地区が2.0%増加（1,225人）、立花地区が0.1%増加（88人）し、中央地区は横ばいとなった。ほか3地区は、大庄地区で2.9%（▲877人）、武庫地区で1.4%（▲672人）、小田地区で0.9%（▲399人）の減少となった。

65歳以上人口は、令和4年度末において、立花地区（29,234人）、園田地区（23,384人）、小田地区（21,196人）の順が多い。平成30年度末と比べると、武庫地区、園田地区をのぞく4地区で減少し、大庄地区4.6%（▲786人）、小田地区2.7%（▲589人）の順で減少率が高かった。

0～14 歳人口の推移

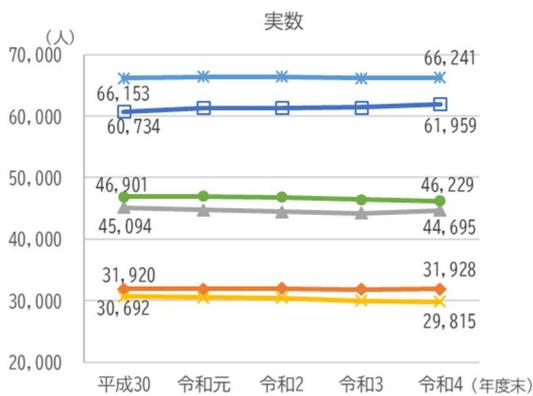


資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）
※グラフの記号は右図に同じ。（以下同じ。）

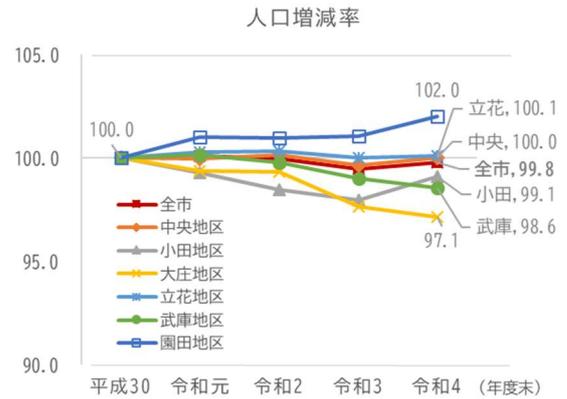


資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）
※平成30年度末を100とする。（以下同じ。）

15～64 歳人口の推移

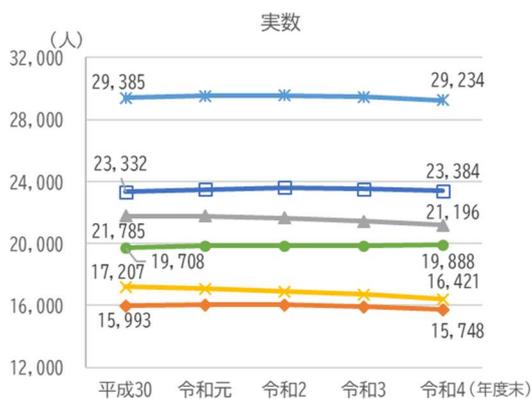


資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

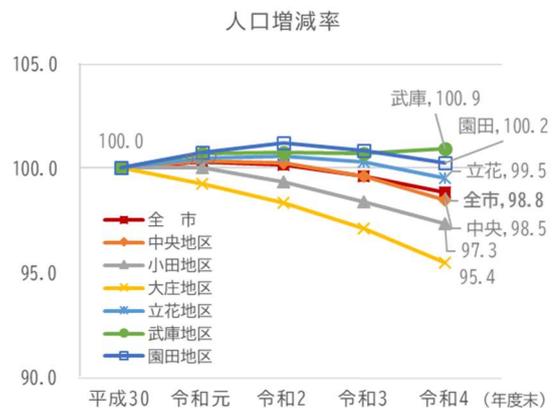


資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

65 歳以上人口の推移



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

0～14歳人口（各年度末現在）（単位：人）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	変化（H30-R4年度）	
						実数	増加率
全 市	54,030	53,618	53,019	52,407	51,575	▲ 2,455	▲ 4.5%
中央地区	5,028	4,896	4,755	4,612	4,440	▲ 588	▲ 11.7%
小田地区	8,888	8,820	8,738	8,590	8,517	▲ 371	▲ 4.2%
大庄地区	5,662	5,571	5,491	5,319	5,189	▲ 473	▲ 8.4%
立花地区	12,469	12,270	12,066	11,847	11,576	▲ 893	▲ 7.2%
武庫地区	9,751	9,679	9,555	9,481	9,280	▲ 471	▲ 4.8%
園田地区	12,232	12,382	12,414	12,558	12,573	341	2.8%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

15～64歳人口（各年度末現在）（単位：人）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	変化（H30-R4年度）	
						実数	増加率
全 市	281,494	281,869	281,384	279,967	280,867	▲ 627	▲ 0.2%
中央地区	31,920	31,906	31,967	31,807	31,928	8	0.0%
小田地区	45,094	44,774	44,412	44,185	44,695	▲ 399	▲ 0.9%
大庄地区	30,692	30,504	30,486	29,976	29,815	▲ 877	▲ 2.9%
立花地区	66,153	66,345	66,381	66,165	66,241	88	0.1%
武庫地区	46,901	46,984	46,811	46,443	46,229	▲ 672	▲ 1.4%
園田地区	60,734	61,356	61,327	61,391	61,959	1,225	2.0%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

65歳以上人口（各年度末現在）（単位：人）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	変化（H30-R4年度）	
						実数	増加率
全 市	127,410	127,749	127,585	126,887	125,871	▲ 1,539	▲ 1.2%
中央地区	15,993	16,045	16,030	15,927	15,748	▲ 245	▲ 1.5%
小田地区	21,785	21,784	21,637	21,432	21,196	▲ 589	▲ 2.7%
大庄地区	17,207	17,072	16,914	16,708	16,421	▲ 786	▲ 4.6%
立花地区	29,385	29,514	29,549	29,461	29,234	▲ 151	▲ 0.5%
武庫地区	19,708	19,838	19,852	19,842	19,888	180	0.9%
園田地区	23,332	23,496	23,603	23,517	23,384	52	0.2%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

(2) 年齢3区分別人口構成比

①全市

令和4年度末における年齢3区分別人口の割合をみると、0～14歳人口は平成30年度末より0.4ポイント低下して11.3%、15～64歳人口は0.5ポイント上昇して61.3%、65歳以上人口は横ばいの27.5%となった。

②地区別

令和4年度末の0～14歳人口の割合は、園田地区（12.8%）、武庫地区（12.3%）、小田地区（11.4%）の順に高い。一方で、中央地区（8.5%）が最も低く、1割を下回っている。

15～64歳人口は、園田地区（63.3%）で最も高く、大庄地区（58.0%）で最も低い。

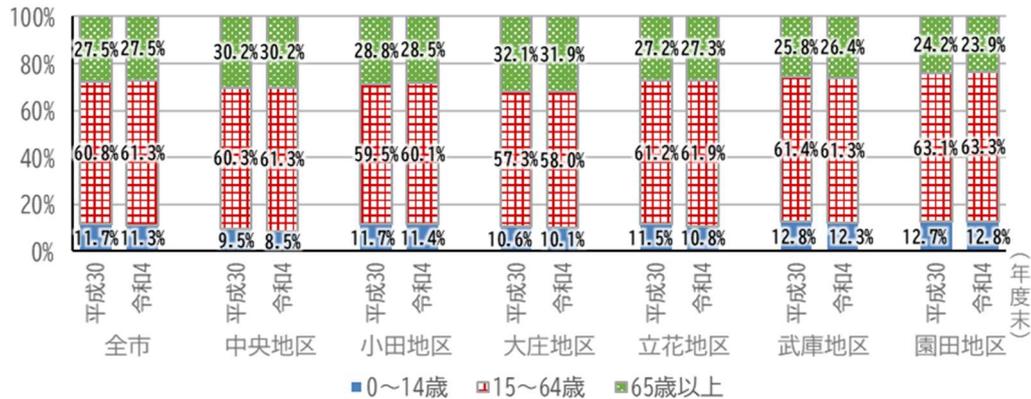
65歳以上人口は、大庄地区（31.9%）、中央地区（30.2%）では3割を超えている一方で、園田地区（23.9%）が6地区のなかで特に低くなっている。

平成30年度末と比べると、0～14歳人口の割合は、園田地区のみ上昇（0.1ポイント）して12.8%となった。一方、低下した5地区のなかでは、中央地区（▲1.0ポイント）、立花地区（▲0.7ポイント）、武庫地区（▲0.5ポイント）が、全市を超える減少幅となった。

15～64歳人口の割合は、武庫地区が唯一、低下（▲0.1ポイント）している。

65歳以上人口の割合は、武庫地区、立花地区で上昇し、このうち武庫地区の上昇幅（0.6ポイント）が最も大きい。

年齢3区分別人口の割合の推移

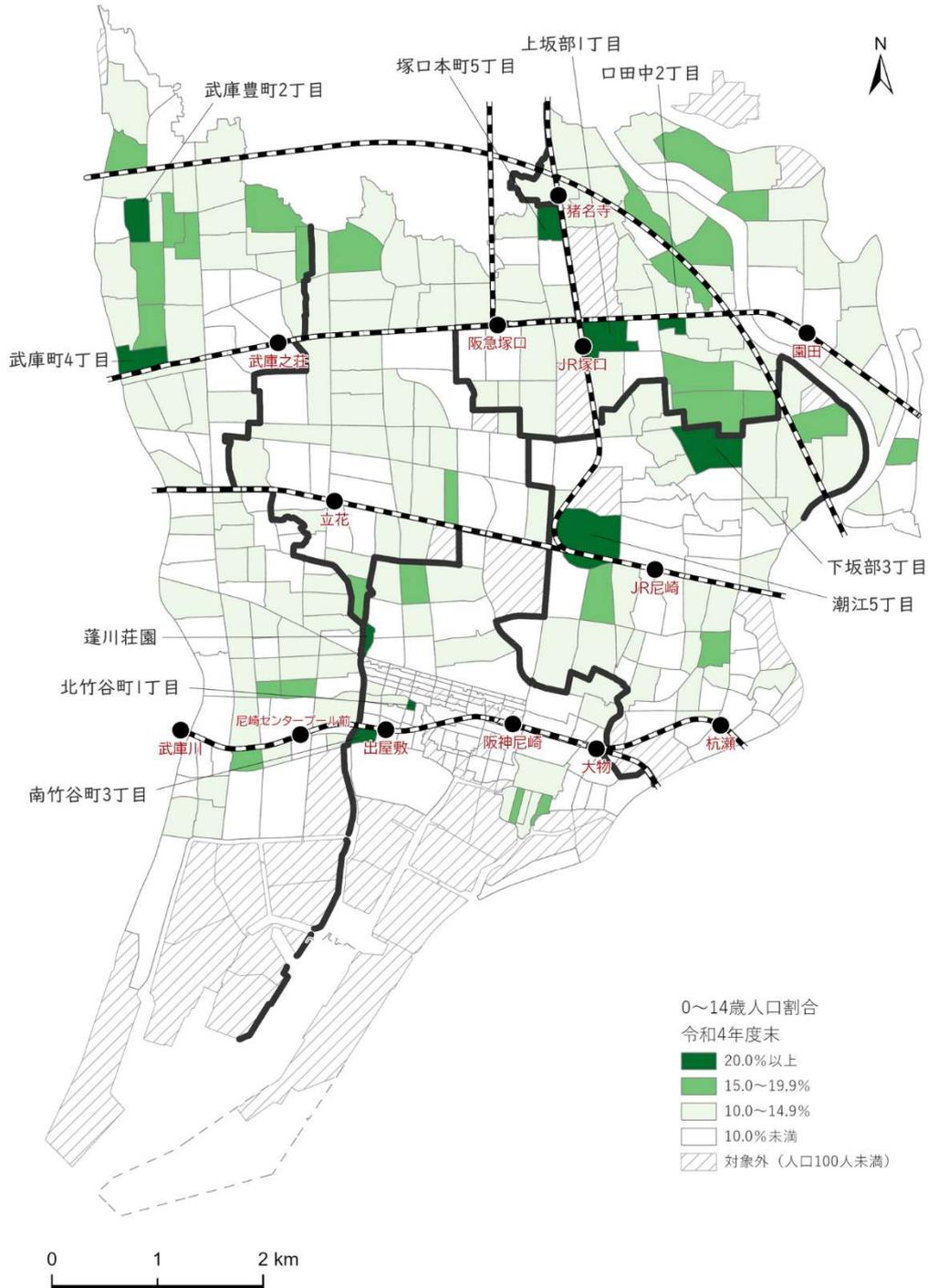


資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

年齢3区分別人口の割合（各年度末現在）

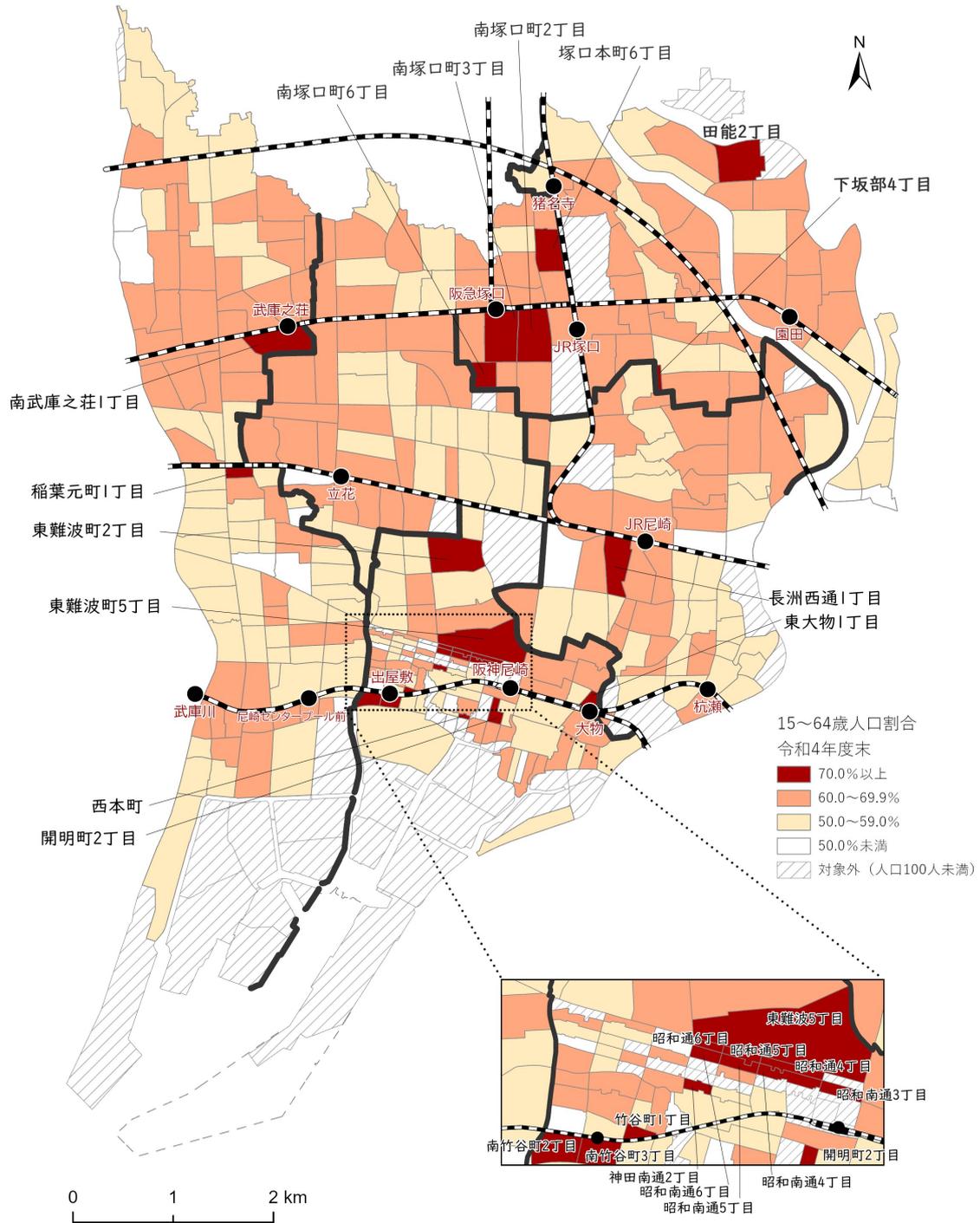
		0～14歳	15～64歳	65歳以上			0～14歳	15～64歳	65歳以上
全市	平成30年度	11.7%	60.8%	27.5%	立花地区	平成30年度	11.5%	61.2%	27.2%
	令和元年度	11.6%	60.8%	27.6%		令和元年度	11.3%	61.4%	27.3%
	令和2年度	11.5%	60.9%	27.6%		令和2年度	11.2%	61.5%	27.4%
	令和3年度	11.4%	61.0%	27.6%		令和3年度	11.0%	61.6%	27.4%
	令和4年度	11.3%	61.3%	27.5%		令和4年度	10.8%	61.9%	27.3%
	割合の変化*	▲ 0.4	0.5	0.0		割合の変化*	▲ 0.7	0.6	0.1
	中央地区	平成30年度	9.5%	60.3%		30.2%	武庫地区	平成30年度	12.8%
令和元年度	9.3%	60.4%	30.4%	令和元年度	12.7%	61.4%		25.9%	
令和2年度	9.0%	60.6%	30.4%	令和2年度	12.5%	61.4%		26.0%	
令和3年度	8.8%	60.8%	30.4%	令和3年度	12.5%	61.3%		26.2%	
令和4年度	8.5%	61.3%	30.2%	令和4年度	12.3%	61.3%		26.4%	
割合の変化*	▲ 1.0	1.0	0.0	割合の変化*	▲ 0.5	▲ 0.1		0.6	
小田地区	平成30年度	11.7%	59.5%	28.8%	園田地区	平成30年度	12.7%	63.1%	24.2%
	令和元年度	11.7%	59.4%	28.9%		令和元年度	12.7%	63.1%	24.2%
	令和2年度	11.7%	59.4%	28.9%		令和2年度	12.8%	63.0%	24.2%
	令和3年度	11.6%	59.5%	28.9%		令和3年度	12.9%	63.0%	24.1%
	令和4年度	11.4%	60.1%	28.5%		令和4年度	12.8%	63.3%	23.9%
	割合の変化*	▲ 0.3	0.6	▲ 0.3		割合の変化*	0.1	0.2	▲ 0.3
大庄地区	平成30年度	10.6%	57.3%	32.1%	資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）				
	令和元年度	10.5%	57.4%	32.1%	※割合の変化は、令和4年度から平成30年度を引いた差。				
	令和2年度	10.4%	57.6%	32.0%					
	令和3年度	10.2%	57.6%	32.1%					
	令和4年度	10.1%	58.0%	31.9%					
割合の変化*	▲ 0.5	0.7	▲ 0.2						

町丁目別 0～14歳人口の割合（令和4年度末）



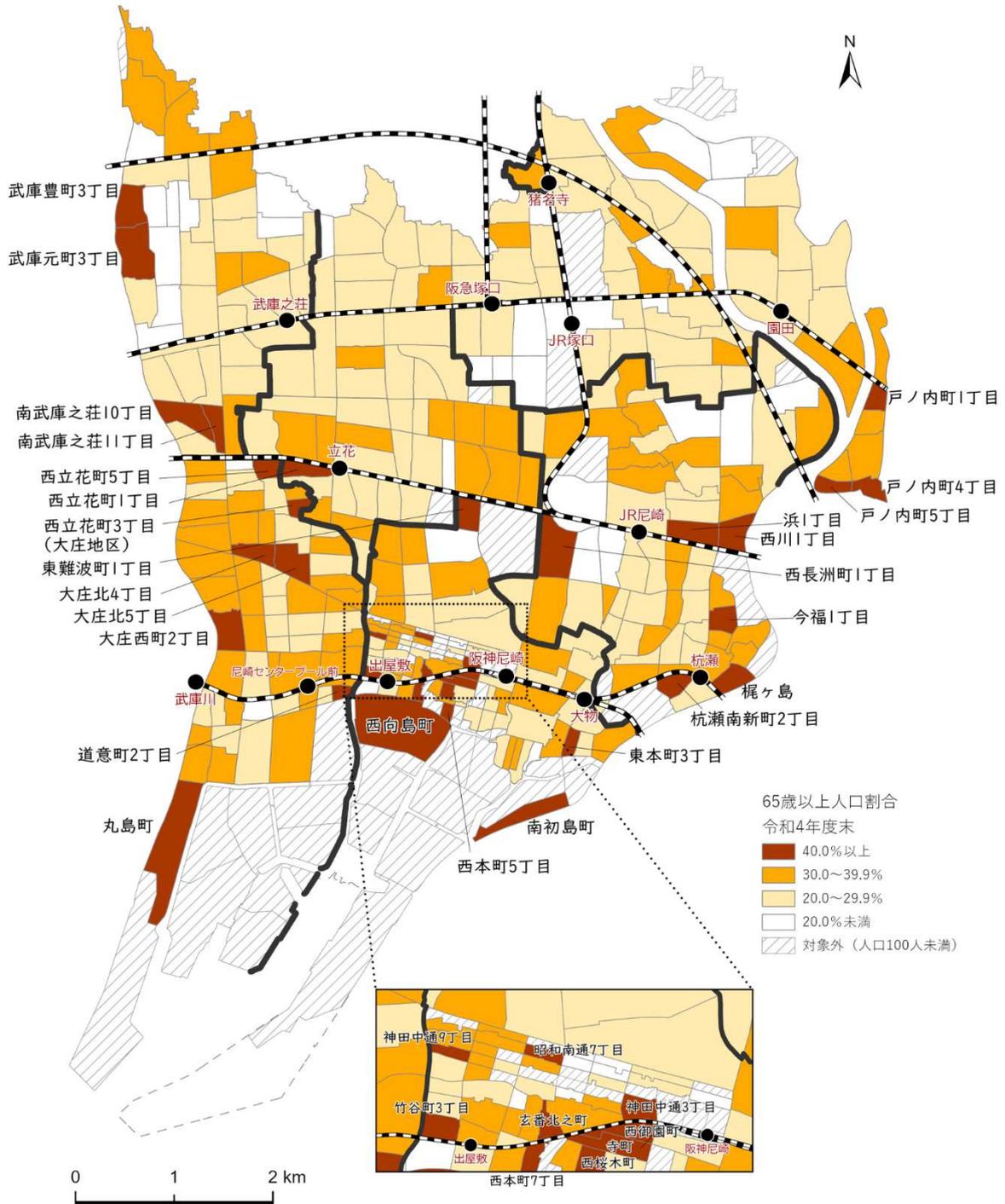
資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

町丁目別 15～64歳人口の割合（令和4年度末）



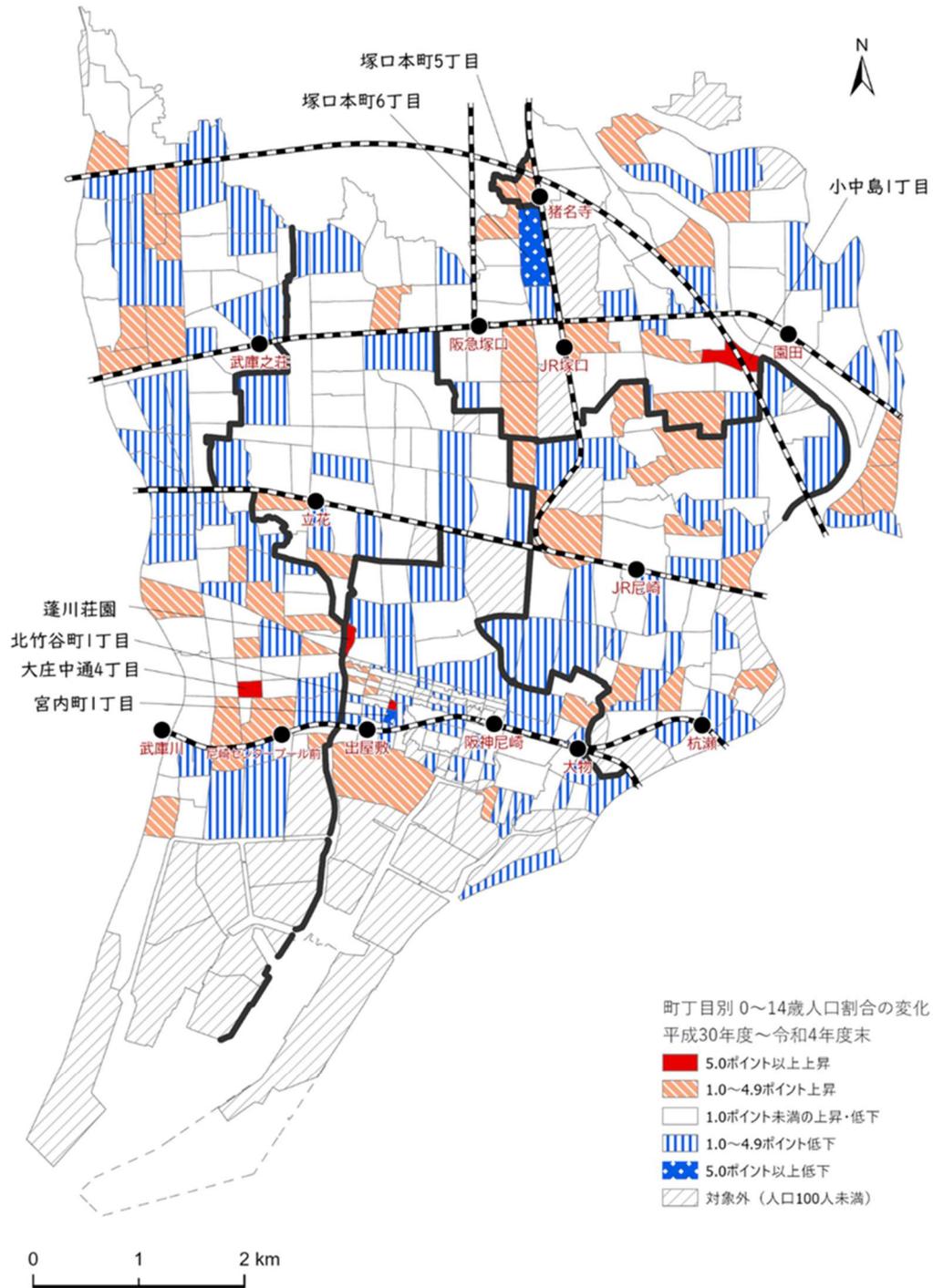
資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

町丁目別 65歳以上人口の割合（令和4年度末）



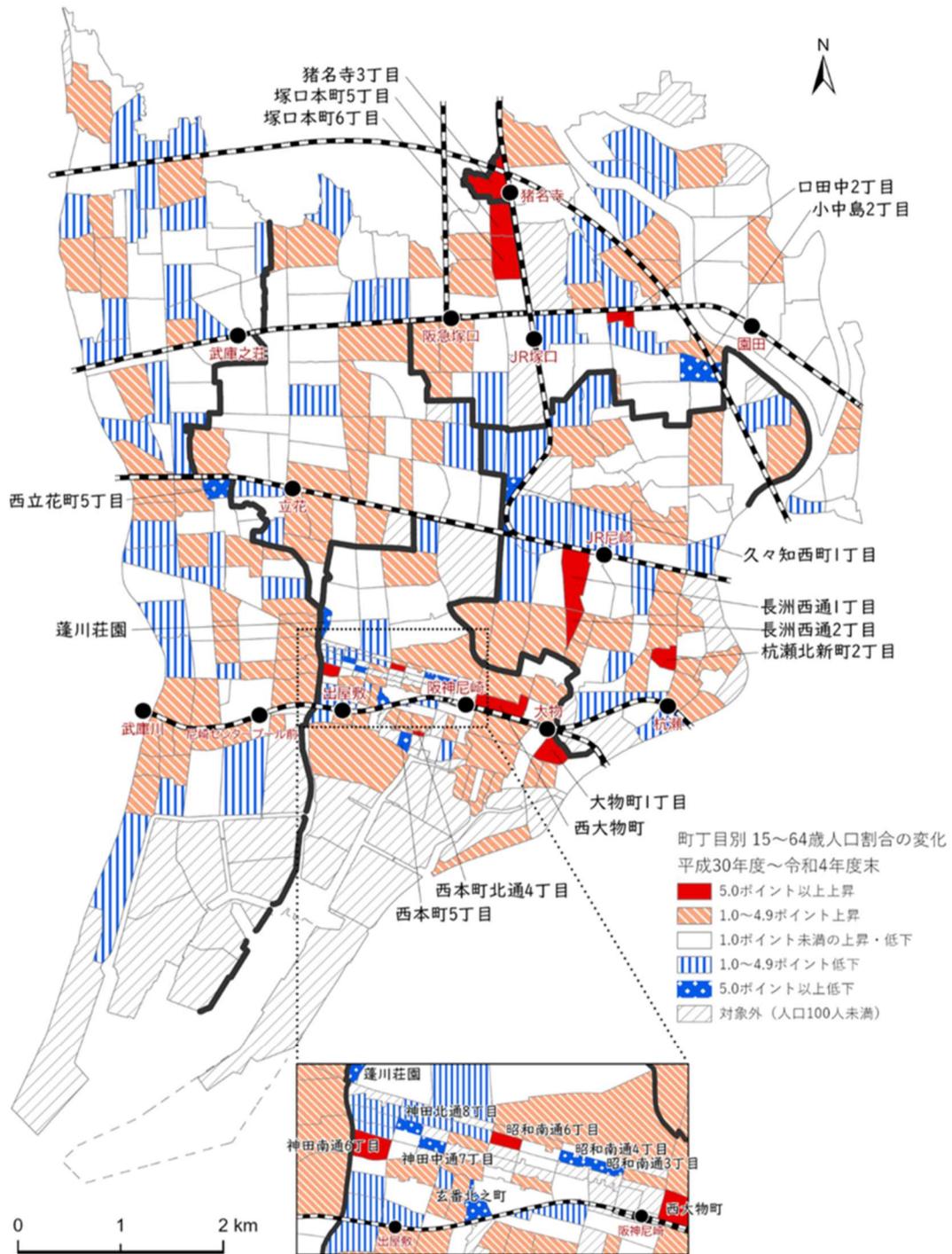
資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

町丁目別 0～14歳人口の割合の変化（平成30～令和4年度末）



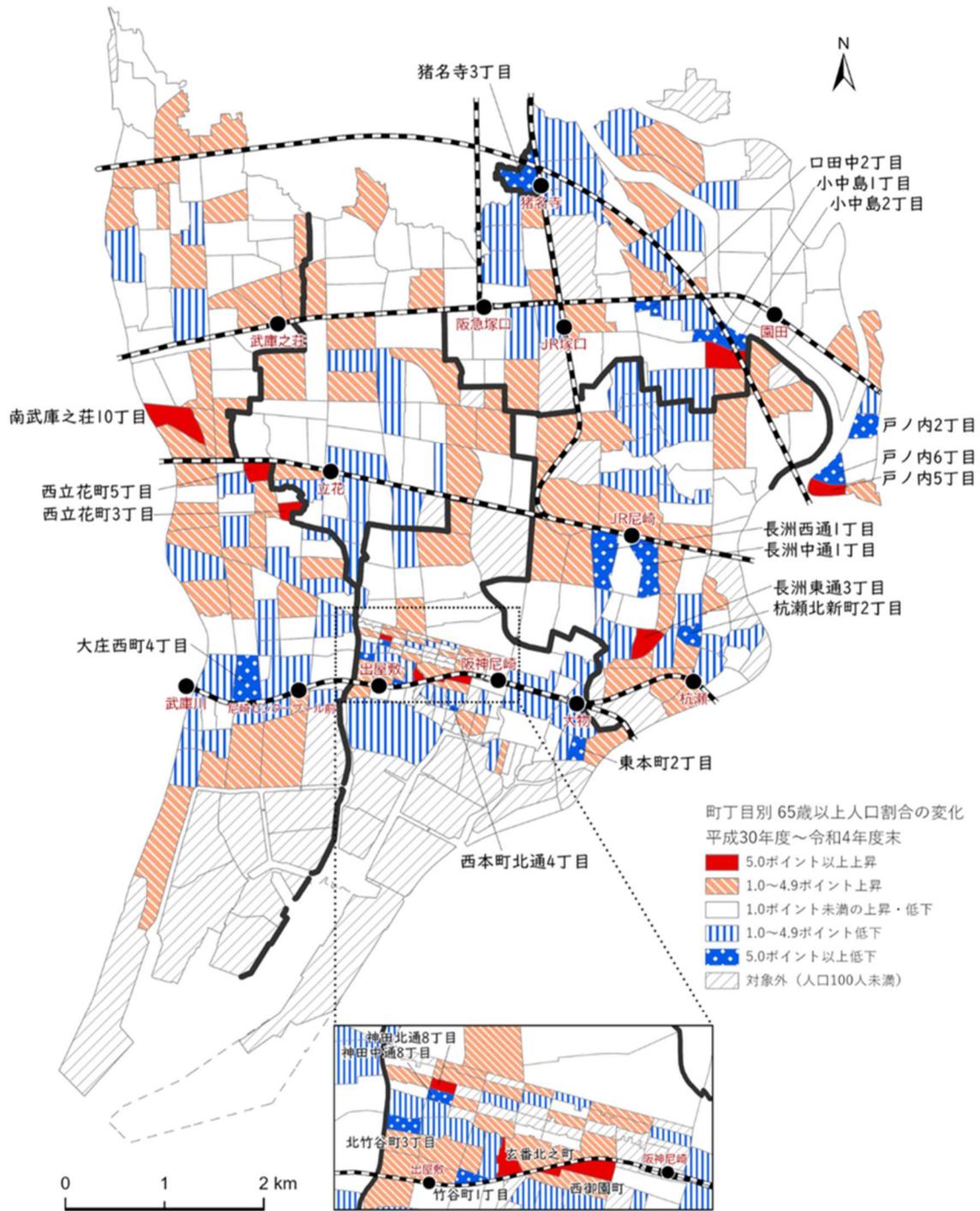
資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

町丁目別 15～64歳人口の割合の変化（平成30～令和4年度末）



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

町丁目別 65歳以上人口の割合の変化（平成30～令和4年度末）



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

4 在留外国人の人口及び世帯数

(1) 人口

①全市

令和4年度末における在留外国人人口は、12,368人である。前年度末より6.6%の増加（767人）、平成30年度末と比べると7.8%の増加（900人）となった。

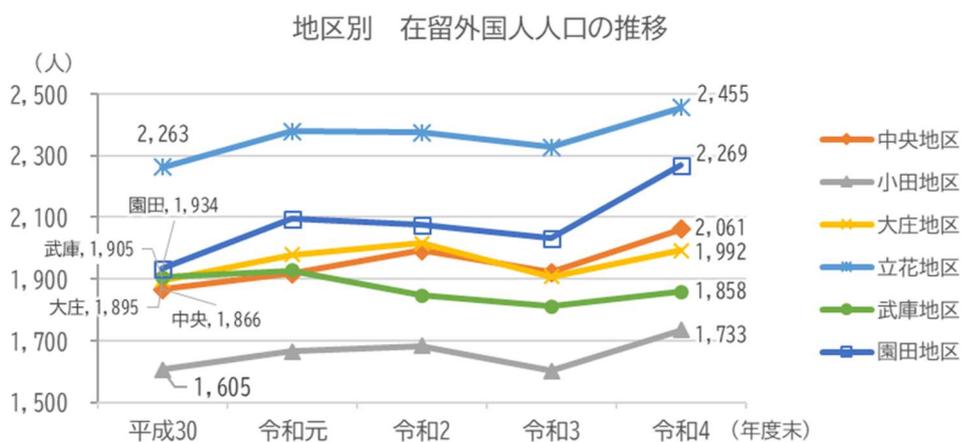


資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

②地区別

令和4年度末における人口は、立花地区（2,455人）、園田地区（2,269人）、中央地区（2,061人）の順が多い。また、6地区とも前年度末より増加している。

平成30年度末と比べると、武庫地区をのぞく5地区で増加となり、なかでも、園田地区は17.3%増加（335人）、中央地区は10.5%増加（195人）と、増加率が高い。



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

在留外国人人口（各年度末現在）

（単位：人）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	変化（H30-R4年度）	
						実数	増加率
全 市	11,468	11,962	11,986	11,601	12,368	900	7.8%
中央地区	1,866	1,918	1,992	1,921	2,061	195	10.5%
小田地区	1,605	1,665	1,682	1,602	1,733	128	8.0%
大庄地区	1,895	1,979	2,016	1,908	1,992	97	5.1%
立花地区	2,263	2,378	2,375	2,328	2,455	192	8.5%
武庫地区	1,905	1,928	1,846	1,811	1,858	▲ 47	▲ 2.5%
園田地区	1,934	2,094	2,075	2,031	2,269	335	17.3%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

(2) 世帯数及び1世帯当たり人員

①全市

令和4年度末における在留外国人世帯数は、8,022世帯となり、前年度末と比べて10.0%増加（727世帯）した。また、平成30年度末に比べて13.6%増加（960世帯）した。

1世帯当たり人員は、令和4年度末で1.54人と、前年度末より0.05人減少した。

在留外国人 世帯数及び1世帯当たり人員の推移



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

②地区別

令和4年度末の世帯数は、立花地区（1,544世帯）、園田地区（1,507世帯）、中央地区（1,361世帯）の順が多い。

平成30年度末に比べると6地区とも増加し、なかでも、園田地区で23.0%増加（282世帯）、中央地区で17.6%増加（204世帯）、立花地区で15.0%増加（201世帯）、小田地区で12.6%増加（129世帯）と、4地区で1割以上の増加となった。

1世帯当たり人員は、立花地区・武庫地区（ともに1.59人）、大庄地区（1.55人）の順で高い。最近5年間の推移をみると、6地区とも減少傾向にある。

地区別 世帯数及び1世帯当たり人員の推移



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

在留外国人世帯数（各年度末現在）

（単位：世帯）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	変化（H30-R4年度）	
						実数	増加率
全 市	7,062	7,536	7,667	7,295	8,022	960	13.6%
中央地区	1,157	1,212	1,290	1,239	1,361	204	17.6%
小田地区	1,021	1,069	1,101	1,006	1,150	129	12.6%
大庄地区	1,180	1,270	1,315	1,228	1,289	109	9.2%
立花地区	1,343	1,448	1,456	1,423	1,544	201	15.0%
武庫地区	1,136	1,182	1,141	1,115	1,171	35	3.1%
園田地区	1,225	1,355	1,364	1,284	1,507	282	23.0%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

在留外国人1世帯当たり人員（各年度末現在）

（単位：人）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	変化（H30-R4年度）
全 市	1.62	1.59	1.56	1.59	1.54	▲ 0.08
中央地区	1.61	1.58	1.54	1.55	1.51	▲ 0.10
小田地区	1.57	1.56	1.53	1.59	1.51	▲ 0.07
大庄地区	1.61	1.56	1.53	1.55	1.55	▲ 0.06
立花地区	1.69	1.64	1.63	1.64	1.59	▲ 0.10
武庫地区	1.68	1.63	1.62	1.62	1.59	▲ 0.09
園田地区	1.58	1.55	1.52	1.58	1.51	▲ 0.07

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

II 人口動態

1 人口増減

(1) 全市

令和4年（暦年1年間。以下同様。）は、前年より1,253人減少した。令和4年の増減の内訳をみると、自然動態は2,578人の減少、社会動態は1,325人の増加となった。



資料：尼崎市人口月報

(2) 地区別

令和4年は、園田地区（666人）、小田地区（105人）で人口が増加した。ほか4地区では減少し、減少数は、大庄地区（▲708人）、武庫地区（▲473人）、中央地区（▲458人）、立花地区（▲385人）の順で多かった。



資料：尼崎市人口月報

人口増減数 (単位：人)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
全 市	442	76	▲ 442	▲ 2,672	▲ 1,253
中央地区	▲ 87	▲ 58	▲ 46	▲ 167	▲ 458
小田地区	▲ 59	▲ 230	▲ 571	▲ 833	105
大庄地区	▲ 445	▲ 426	▲ 302	▲ 655	▲ 708
立花地区	▲ 135	▲ 30	29	▲ 546	▲ 385
武庫地区	62	▲ 93	▲ 51	▲ 409	▲ 473
園田地区	1,106	913	499	▲ 62	666

資料：尼崎市人口月報

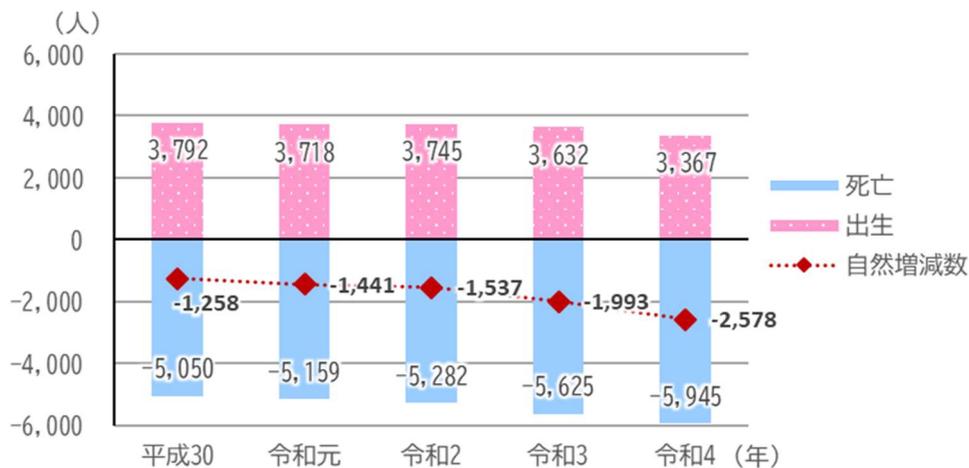
2 自然動態

(1) 全市

尼崎市の出生数は3,600～3,700人台で推移していたが、令和4年は前年より7.3%減少（▲265人）して3,367人となった。死亡数は増加が続き、令和4年は前年より5.7%増加（320人）して5,945人となった。

そのため、令和4年は2,578人の自然減となり、減少幅は前年より29.4%拡大（▲585人）した。

尼崎市の自然増減数の推移



資料：尼崎市人口月報

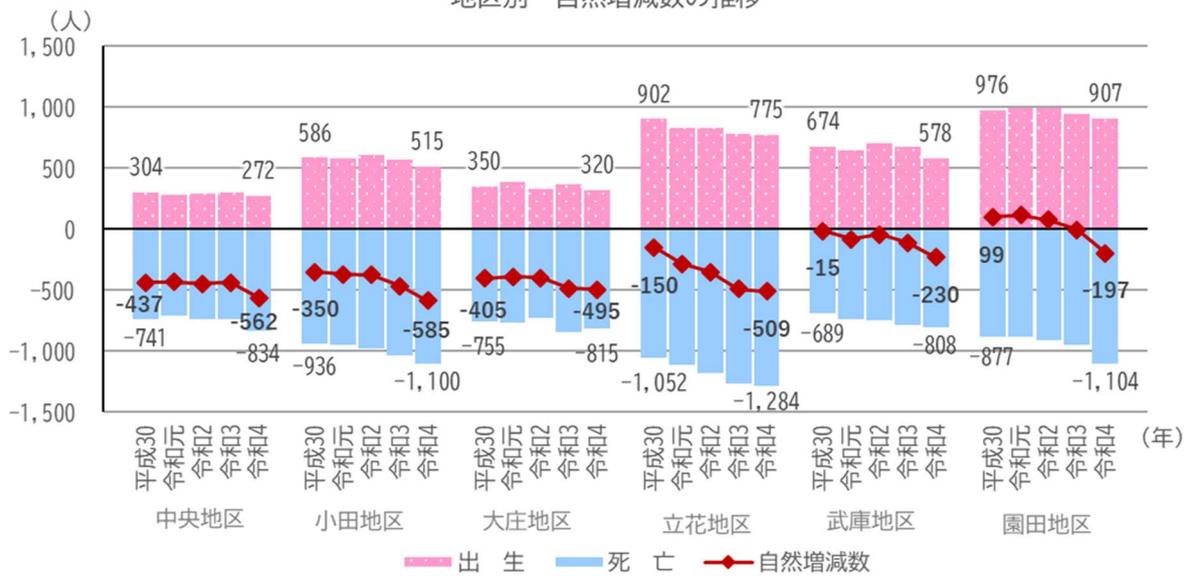
(2) 地区別

令和4年の出生数は、園田地区（907人）、立花地区（775人）、武庫地区（578人）の順となり、北部3地区が多かった。死亡数は、立花地区（1,284人）、園田地区（1,104人）、小田地区（1,100人）の順が多かった。

令和4年は6地区とも死亡数が出生数を上回り、自然減となった。減少数は、小田地区（▲585人）が最も多く、中央地区、立花地区も500人を超えている。

最近5年間の推移をみると、園田地区は令和3年より減少に転じ、ほか5地区は減少が続いており、いずれも減少幅が拡大傾向にある。

地区別 自然増減数の推移



資料：尼崎市人口月報

出生数 (単位：人)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
全市	3,792	3,718	3,745	3,632	3,367
中央地区	304	281	291	297	272
小田地区	586	578	606	571	515
大庄地区	350	384	327	363	320
立花地区	902	831	825	779	775
武庫地区	674	650	706	676	578
園田地区	976	994	990	946	907

資料：尼崎市人口月報

死亡数 (単位：人)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
全市	5,050	5,159	5,282	5,625	5,945
中央地区	741	713	737	736	834
小田地区	936	948	980	1,037	1,100
大庄地区	755	771	726	848	815
立花地区	1,052	1,115	1,178	1,269	1,284
武庫地区	689	733	749	786	808
園田地区	877	879	912	949	1,104

資料：尼崎市人口月報

自然増減数 (出生数－死亡数) (単位：人)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
全市	▲ 1,258	▲ 1,441	▲ 1,537	▲ 1,993	▲ 2,578
中央地区	▲ 437	▲ 432	▲ 446	▲ 439	▲ 562
小田地区	▲ 350	▲ 370	▲ 374	▲ 466	▲ 585
大庄地区	▲ 405	▲ 387	▲ 399	▲ 485	▲ 495
立花地区	▲ 150	▲ 284	▲ 353	▲ 490	▲ 509
武庫地区	▲ 15	▲ 83	▲ 43	▲ 110	▲ 230
園田地区	99	115	78	▲ 3	▲ 197

資料：尼崎市人口月報

3 社会動態

(1) 全市

転入数は、令和3年以前は減少が続いていたが、令和4年は前年より12.9%増加(2,248人)して19,645人となった。転出数は、令和3年に18,000人台に増加し、令和4年も前年より1.3%増加(244人)して18,320人となった。



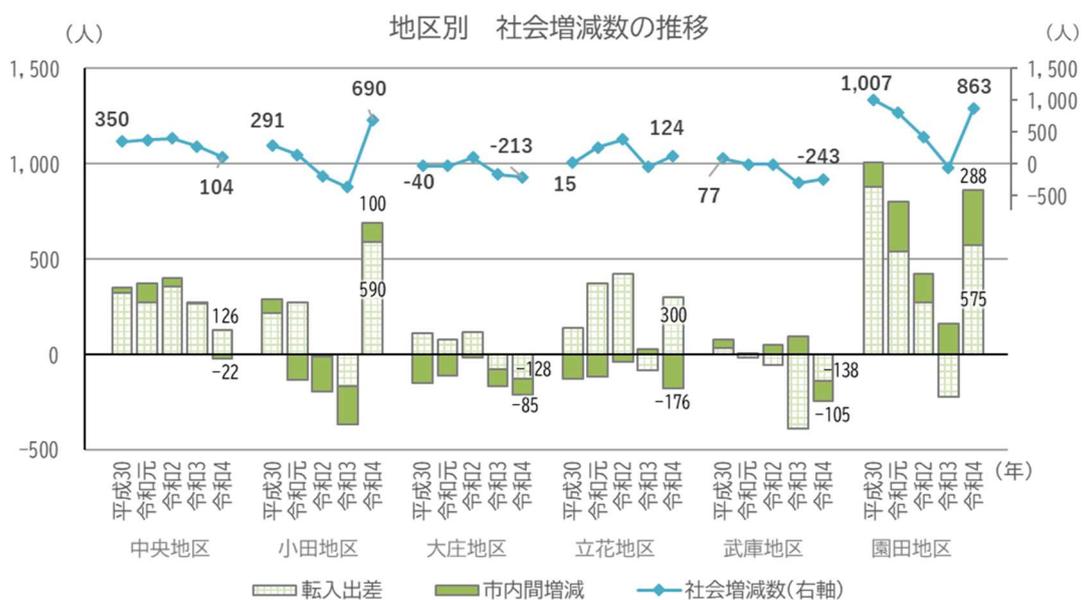
資料：尼崎市人口月報

(2) 地区別

① 社会増減

令和4年は、中央地区、小田地区、立花地区、園田地区で社会増、ほか2地区は社会減となった。増加数は園田地区(863人)が最も多く、小田地区(690人)、立花地区(124人)の順で多くなっている。

また、社会増減数の内訳をみると、令和4年は、小田地区、園田地区は転入超過で市内間増減(市内間転居による増減のこと。)も増加している。中央地区、立花地区は転入超過だが、市内間増減は減少、大庄地区、武庫地区は転出超過で市内間増減も減少となった。



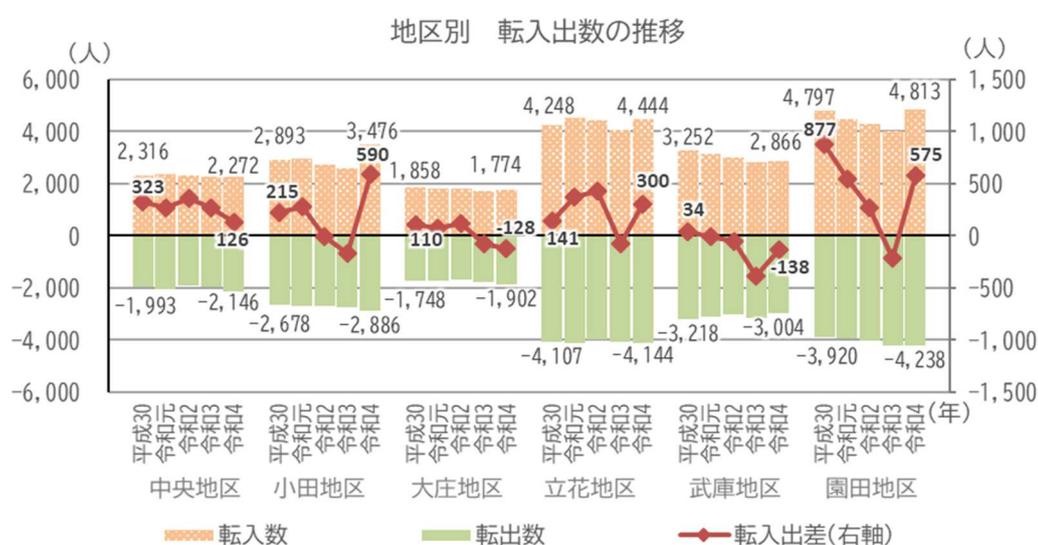
資料：尼崎市人口月報

②転入出

令和4年の転入数は、園田地区（4,813人）、立花地区（4,444人）、小田地区（3,476人）の順で多くなっている。平成30年からの増減率が大きい地区をみると、小田地区は20.2%増加（583人）、立花地区は4.6%増加（196人）しており、武庫地区は11.9%減少（▲386人）、大庄地区は4.5%減少（▲84人）している。

令和4年の転出数は、園田地区（4,238人）、立花地区（4,144人）、武庫地区（3,004人）の順で多くなっている。最近5年間の推移をみると、武庫地区をのぞく5地区で増加傾向にある。

転入出差をみると、令和4年は、大庄地区、武庫地区をのぞく4地区で転入超過となり、特に、小田地区では590人、園田地区では575人と転入超過数が多くなっている。



資料：尼崎市人口月報

転入数 (単位: 人)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)	
						実数	増加率
全 市	19,364	19,203	18,496	17,397	19,645	281	1.5%
中央地区	2,316	2,327	2,306	2,264	2,272	▲ 44	▲ 1.9%
小田地区	2,893	2,961	2,703	2,594	3,476	583	20.2%
大庄地区	1,858	1,799	1,807	1,722	1,774	▲ 84	▲ 4.5%
立花地区	4,248	4,514	4,409	4,028	4,444	196	4.6%
武庫地区	3,252	3,119	2,975	2,795	2,866	▲ 386	▲ 11.9%
園田地区	4,797	4,483	4,296	3,994	4,813	16	0.3%

資料：尼崎市人口月報

転出数 (単位: 人)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)	
						実数	増加率
全 市	17,664	17,686	17,401	18,076	18,320	656	3.7%
中央地区	1,993	2,056	1,950	1,995	2,146	153	7.7%
小田地区	2,678	2,689	2,714	2,764	2,886	208	7.8%
大庄地区	1,748	1,724	1,691	1,802	1,902	154	8.8%
立花地区	4,107	4,141	3,988	4,113	4,144	37	0.9%
武庫地区	3,218	3,134	3,032	3,186	3,004	▲ 214	▲ 6.7%
園田地区	3,920	3,942	4,026	4,216	4,238	318	8.1%

資料：尼崎市人口月報

転入出差（転入者数－転出者数）（単位：人）

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化(H30-R4)
全 市	1,700	1,517	1,095	▲ 679	1,325	▲ 375
中央地区	323	271	356	269	126	▲ 197
小田地区	215	272	▲ 11	▲ 170	590	375
大庄地区	110	75	116	▲ 80	▲ 128	▲ 238
立花地区	141	373	421	▲ 85	300	159
武庫地区	34	▲ 15	▲ 57	▲ 391	▲ 138	▲ 172
園田地区	877	541	270	▲ 222	575	▲ 302

資料：尼崎市人口月報

市内間増減（単位：人）

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化(H30-R4)
全 市	0	0	0	0	0	0
中央地区	27	103	44	3	▲ 22	▲ 49
小田地区	76	▲ 132	▲ 186	▲ 197	100	24
大庄地区	▲ 150	▲ 114	▲ 19	▲ 90	▲ 85	65
立花地区	▲ 126	▲ 119	▲ 39	29	▲ 176	▲ 50
武庫地区	43	5	49	92	▲ 105	▲ 148
園田地区	130	257	151	163	288	158

資料：尼崎市人口月報

社会増減数（転入出差＋市内間増減）（単位：人）

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化(H30-R4)
全 市	1,700	1,517	1,095	▲ 679	1,325	▲ 375
中央地区	350	374	400	272	104	▲ 246
小田地区	291	140	▲ 197	▲ 367	690	399
大庄地区	▲ 40	▲ 39	97	▲ 170	▲ 213	▲ 173
立花地区	15	254	382	▲ 56	124	109
武庫地区	77	▲ 10	▲ 8	▲ 299	▲ 243	▲ 320
園田地区	1,007	798	421	▲ 59	863	▲ 144

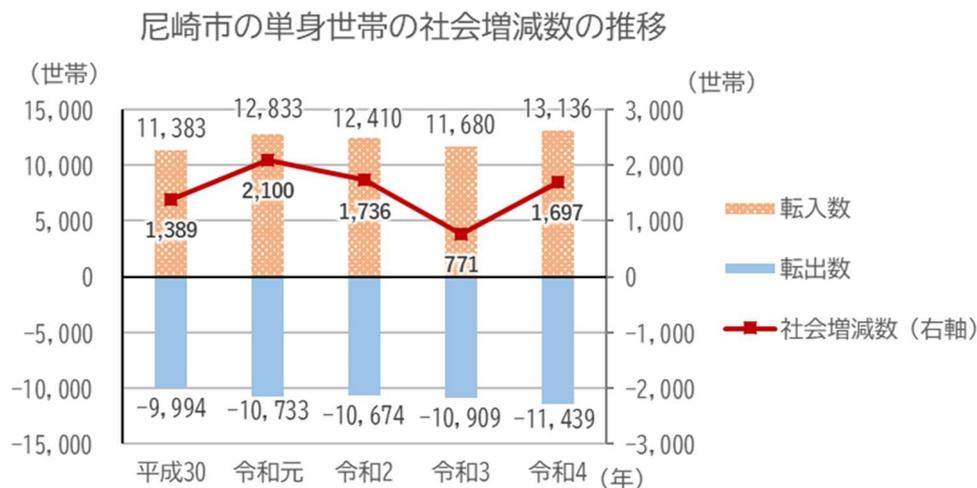
資料：尼崎市人口月報

4 単身世帯の社会動態

(1) 全市

転入数は、令和2年から2年連続で減少したが、令和4年は前年より12.5%増加（1,456世帯）して13,136世帯となった。転出数は増加傾向にあり、令和4年は前年より4.9%増加（530世帯）して11,439世帯となった。

社会増減数をみると、社会増が続いており、増加幅は令和2年から2年連続で縮小したが、令和4年は前年より120.1%拡大（926世帯）して1,697世帯となった。



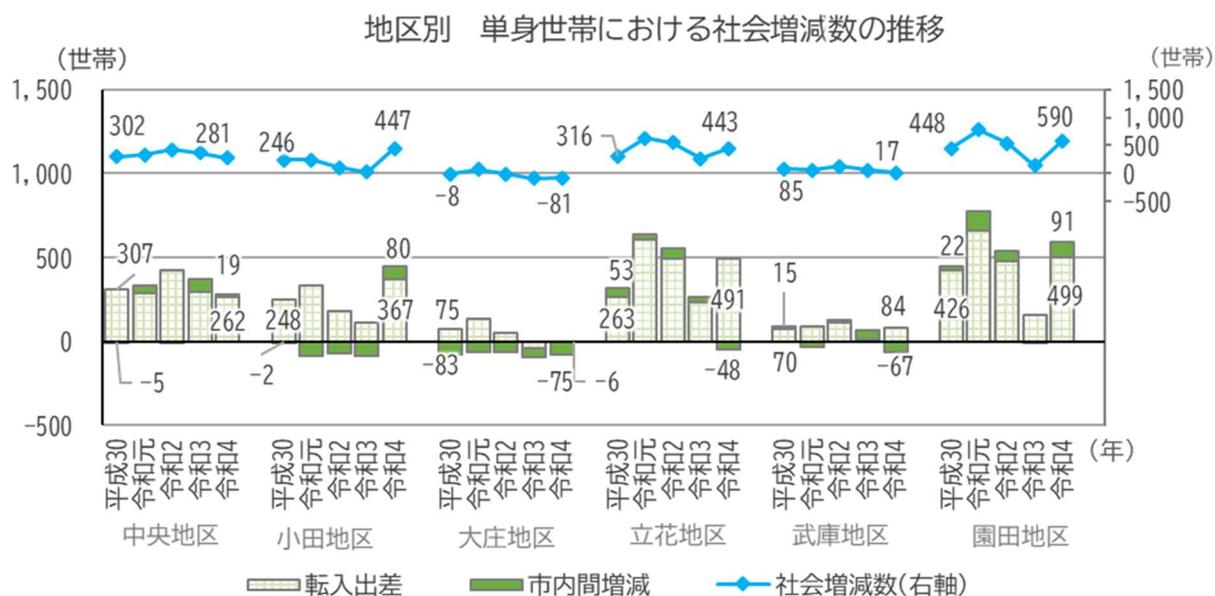
資料：尼崎市都市政策課

(2) 地区別

①社会増減

令和4年の社会増減数をみると、大庄地区で81世帯の社会減、ほか5地区は社会増となり、増加数は、園田地区(590世帯)、小田地区(447世帯)、立花地区(443世帯)の順で多くなっている。

また、社会増減数の内訳をみると、令和4年は、中央地区、小田地区、園田地区では転入超過で市内間増減も増加となった。立花地区、武庫地区では転入超過だが、市内間増減は減少しており、大庄地区は転出超過で市内間増減も減少している。



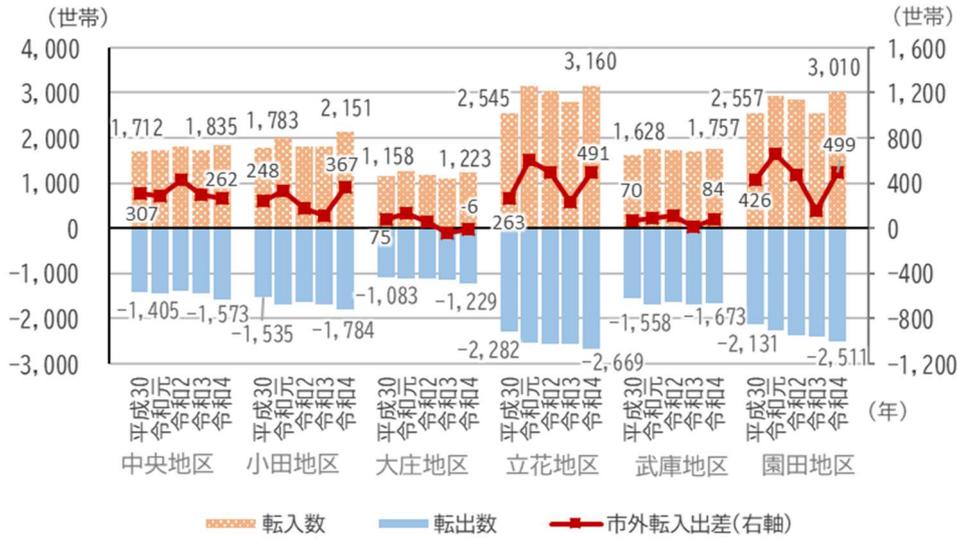
②転入出

令和4年の転入数は、立花地区(3,160世帯)、園田地区(3,010世帯)、小田地区(2,151世帯)の順で多く、また、6地区とも、平成30年に比べ増加している。

令和4年の転出数についても、立花地区(2,669世帯)、園田地区(2,511世帯)、小田地区(1,784世帯)の順で多く、また、6地区とも、平成30年に比べ増加している。

転入出差をみると、令和4年は、大庄地区をのぞく5地区で転入超過となった。転入超過数は、園田地区(499世帯)、立花地区(491世帯)、小田地区(367世帯)の順で多くなっている。

地区別 単身世帯における転入出数の推移



単身世帯の転入数

(単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)	
						実数	増加率
全 市	11,383	12,833	12,410	11,680	13,136	1,753	15.4%
中央地区	1,712	1,741	1,801	1,730	1,835	123	7.2%
小田地区	1,783	2,014	1,802	1,802	2,151	368	20.6%
大庄地区	1,158	1,252	1,177	1,104	1,223	65	5.6%
立花地区	2,545	3,137	3,043	2,798	3,160	615	24.2%
武庫地区	1,628	1,763	1,736	1,694	1,757	129	7.9%
園田地区	2,557	2,926	2,851	2,552	3,010	453	17.7%

資料：尼崎市都市政策課

単身世帯の転出数

(単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)	
						実数	増加率
全 市	9,994	10,733	10,674	10,909	11,439	1,445	14.5%
中央地区	1,405	1,452	1,374	1,436	1,573	168	12.0%
小田地区	1,535	1,685	1,624	1,688	1,784	249	16.2%
大庄地区	1,083	1,121	1,124	1,142	1,229	146	13.5%
立花地区	2,282	2,531	2,553	2,564	2,669	387	17.0%
武庫地区	1,558	1,676	1,625	1,681	1,673	115	7.4%
園田地区	2,131	2,268	2,374	2,398	2,511	380	17.8%

資料：尼崎市都市政策課

単身世帯の転入出差 (転入-転出)

(単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)
全 市	1,389	2,100	1,736	771	1,697	308
中央地区	307	289	427	294	262	▲ 45
小田地区	248	329	178	114	367	119
大庄地区	75	131	53	▲ 38	▲ 6	▲ 81
立花地区	263	606	490	234	491	228
武庫地区	70	87	111	13	84	14
園田地区	426	658	477	154	499	73

資料：尼崎市都市政策課

単身世帯の市内転居 (転居元)

(単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)	
						実数	増加率
全 市	6,716	7,576	7,340	7,403	7,274	558	8.3%
中央地区	1,012	1,105	1,138	1,104	1,076	64	6.3%
小田地区	1,060	1,223	1,161	1,156	1,102	42	4.0%
大庄地区	848	857	868	875	841	▲ 7	▲ 0.8%
立花地区	1,444	1,680	1,630	1,672	1,714	270	18.7%
武庫地区	971	1,218	1,095	1,130	1,045	74	7.6%
園田地区	1,381	1,493	1,448	1,466	1,496	115	8.3%

資料：尼崎市都市政策課

単身世帯の市内転居（転居先）

（単位：世帯）

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化（H30-R4）	
						実数	増加率
全 市	6,716	7,576	7,340	7,403	7,274	558	8.3%
中央地区	1,007	1,147	1,136	1,179	1,095	88	8.7%
小田地区	1,058	1,134	1,088	1,067	1,182	124	11.7%
大庄地区	765	791	801	820	766	1	0.1%
立花地区	1,497	1,708	1,692	1,705	1,666	169	11.3%
武庫地区	986	1,185	1,113	1,180	978	▲ 8	▲ 0.8%
園田地区	1,403	1,611	1,510	1,452	1,587	184	13.1%

資料：尼崎市都市政策課

単身世帯の市内間増減

（単位：世帯）

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化（H30-R4）
全 市	0	0	0	0	0	0
中央地区	▲ 5	42	▲ 2	75	19	24
小田地区	▲ 2	▲ 89	▲ 73	▲ 89	80	82
大庄地区	▲ 83	▲ 66	▲ 67	▲ 55	▲ 75	8
立花地区	53	28	62	33	▲ 48	▲ 101
武庫地区	15	▲ 33	18	50	▲ 67	▲ 82
園田地区	22	118	62	▲ 14	91	69

資料：尼崎市都市政策課

単身世帯の社会増減数（転入出差+市内間増減）

（単位：世帯）

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化（H30-R4）
全 市	1,389	2,100	1,736	771	1,697	308
中央地区	302	331	425	369	281	▲ 21
小田地区	246	240	105	25	447	201
大庄地区	▲ 8	65	▲ 14	▲ 93	▲ 81	▲ 73
立花地区	316	634	552	267	443	127
武庫地区	85	54	129	63	17	▲ 68
園田地区	448	776	539	140	590	142

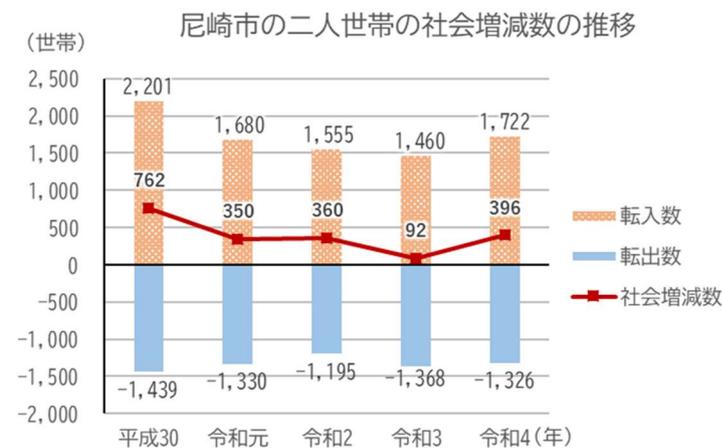
資料：尼崎市都市政策課

5 二人世帯の社会動態

(1) 全市

転入数は、減少が続いていたが、令和4年は、前年より17.9%増加（262世帯）して1,722世帯となった。転出数は令和2年に1,200世帯を下回ったものの、令和3年に再び1,300世帯を超え、令和4年は前年より3.1%減少（▲42世帯）して1,326世帯となった。

社会増減数をみると社会増が続いており、令和4年の増加幅は、前年に比べ330.4%拡大（304世帯）して396世帯となった。



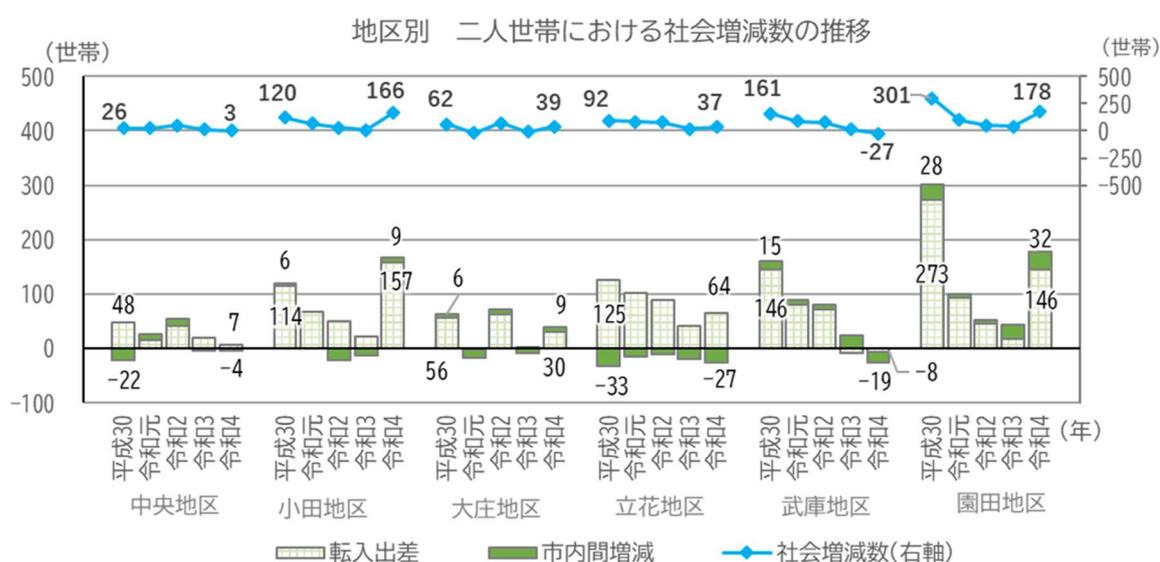
資料：尼崎市都市政策課

(2) 地区別

① 社会増減

令和4年の社会増減数をみると、武庫地区（▲27世帯）は社会減、ほか5地区は社会増となり、園田地区（178世帯）、小田地区（166世帯）、大庄地区（39世帯）の順で多くなっている。最近5年間の推移をみると、中央地区、小田地区、立花地区、園田地区で社会増が続いており、特に、令和4年は、前年と比べて小田地区で158世帯、園田地区で136世帯の増加となった。一方で、武庫地区は41世帯の減少となった。

社会増減数の内訳をみると、令和4年は、小田地区、大庄地区、園田地区では転入超過で市内間増減も増加しており、中央地区、立花地区では、転入超過だが、市内間増減は減少している。武庫地区は転出超過で市内間増減も減少となった。



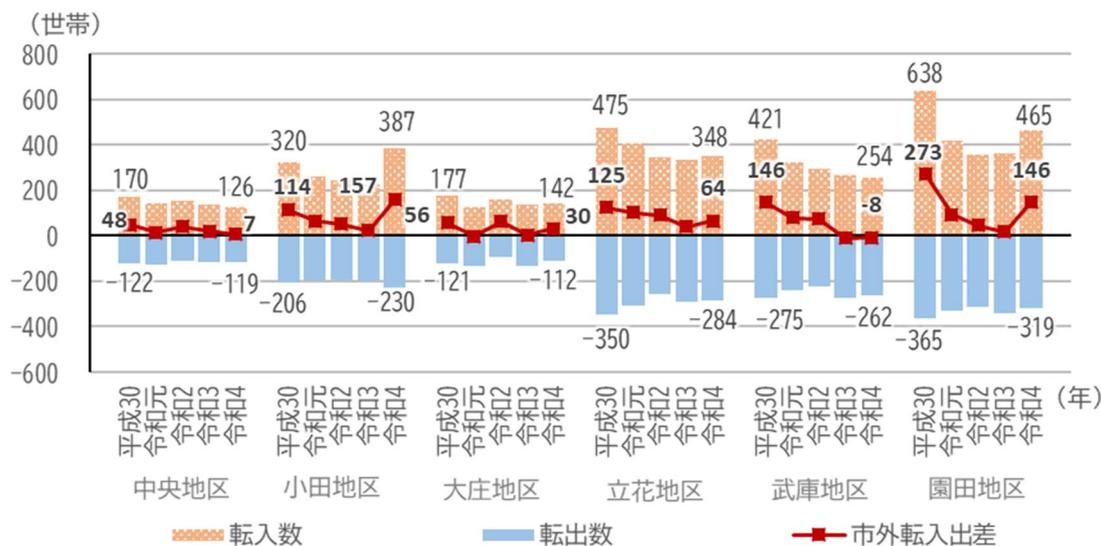
② 転入出

令和4年の二人世帯の転入数は、園田地区（465世帯）、小田地区（387世帯）、立花地区（348世帯）の順で多くなっている。最近5年間の推移をみると、6地区とも転入数は減少傾向にあったが、令和4年は、小田地区、大庄地区、立花地区、園田地区は前年に比べて増加した。

転出数は、園田地区（319世帯）、立花地区（284世帯）、武庫地区（262世帯）の順で多くなっている。平成30年と比べると小田地区のみ増加している。

転入出差をみると、令和4年は、武庫地区をのぞく5地区で転入超過となった。このうち、小田地区（157世帯）、園田地区（146世帯）で転入超過数が大幅に増加した。

地区別 二人世帯における転入出数の推移



資料：尼崎市都市政策課

二人世帯の転入数

(単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)	
						実数	増加率
全 市	2,201	1,680	1,555	1,460	1,722	▲ 479	▲ 21.8%
中央地区	170	143	152	138	126	▲ 44	▲ 25.9%
小田地区	320	262	246	224	387	67	20.9%
大庄地区	177	128	157	138	142	▲ 35	▲ 19.8%
立花地区	475	407	345	333	348	▲ 127	▲ 26.7%
武庫地区	421	320	297	266	254	▲ 167	▲ 39.7%
園田地区	638	420	358	361	465	▲ 173	▲ 27.1%

資料：尼崎市都市政策課

二人世帯の転出数

(単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)	
						実数	増加率
全 市	1,439	1,330	1,195	1,368	1,326	▲ 113	▲ 7.9%
中央地区	122	129	111	118	119	▲ 3	▲ 2.5%
小田地区	206	196	196	202	230	24	11.7%
大庄地区	121	131	95	136	112	▲ 9	▲ 7.4%
立花地区	350	306	256	292	284	▲ 66	▲ 18.9%
武庫地区	275	240	225	276	262	▲ 13	▲ 4.7%
園田地区	365	328	312	344	319	▲ 46	▲ 12.6%

資料：尼崎市都市政策課

二人世帯の転入出差 (転入－転出)

(単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)
全 市	762	350	360	92	396	▲ 366
中央地区	48	14	41	20	7	▲ 41
小田地区	114	66	50	22	157	43
大庄地区	56	▲ 3	62	2	30	▲ 26
立花地区	125	101	89	41	64	▲ 61
武庫地区	146	80	72	▲ 10	▲ 8	▲ 154
園田地区	273	92	46	17	146	▲ 127

資料：尼崎市都市政策課

二世帯の市内転居（転居元） (単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)	
						実数	増加率
全 市	2,267	1,959	1,835	1,756	1,813	▲ 454	▲ 20.0%
中央地区	292	202	229	233	208	▲ 84	▲ 28.8%
小田地区	375	325	304	239	344	▲ 31	▲ 8.3%
大庄地区	237	192	193	199	195	▲ 42	▲ 17.7%
立花地区	530	450	421	421	415	▲ 115	▲ 21.7%
武庫地区	350	392	311	325	286	▲ 64	▲ 18.3%
園田地区	483	398	377	339	365	▲ 118	▲ 24.4%

資料：尼崎市都市政策課

二世帯の市内転居（転居先） (単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)	
						実数	増加率
全 市	2,267	1,959	1,835	1,756	1,813	▲ 454	▲ 20.0%
中央地区	270	214	242	228	204	▲ 66	▲ 24.4%
小田地区	381	325	281	225	353	▲ 28	▲ 7.3%
大庄地区	243	178	202	190	204	▲ 39	▲ 16.0%
立花地区	497	435	409	400	388	▲ 109	▲ 21.9%
武庫地区	365	401	319	349	267	▲ 98	▲ 26.8%
園田地区	511	406	382	364	397	▲ 114	▲ 22.3%

資料：尼崎市都市政策課

二世帯の市内間増減 (単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)
全 市	0	0	0	0	0	0
中央地区	▲ 22	12	13	▲ 5	▲ 4	18
小田地区	6	0	▲ 23	▲ 14	9	3
大庄地区	6	▲ 14	9	▲ 9	9	3
立花地区	▲ 33	▲ 15	▲ 12	▲ 21	▲ 27	6
武庫地区	15	9	8	24	▲ 19	▲ 34
園田地区	28	8	5	25	32	4

資料：尼崎市都市政策課

二世帯の社会増減数（転入出差＋市内間増減） (単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)
全 市	762	350	360	92	396	▲ 366
中央地区	26	26	54	15	3	▲ 23
小田地区	120	66	27	8	166	46
大庄地区	62	▲ 17	71	▲ 7	39	▲ 23
立花地区	92	86	77	20	37	▲ 55
武庫地区	161	89	80	14	▲ 27	▲ 188
園田地区	301	100	51	42	178	▲ 123

資料：尼崎市都市政策課

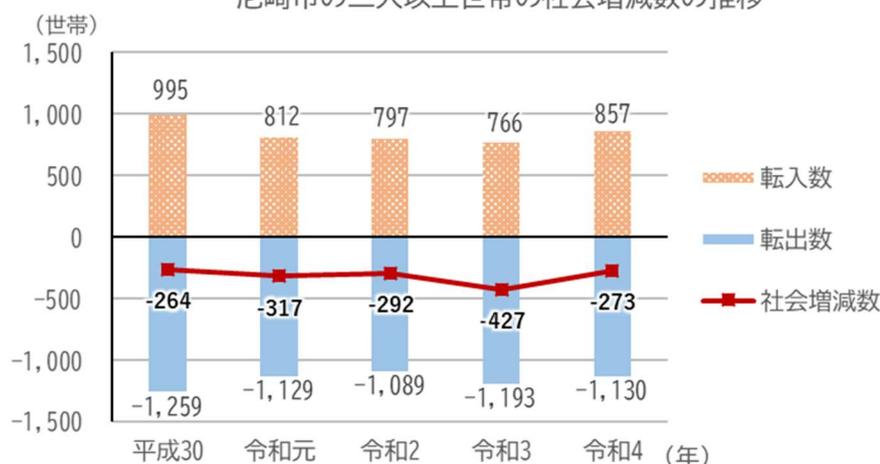
6 三人以上世帯の社会動態

(1) 全市

転入数は、減少を続けていたが、令和4年は、前年より11.9%増加（91世帯）して857世帯となった。転出数は、令和元年から2年連続で減少したが、令和3年は1,193世帯に増加し、令和4年は5.3%減少（▲63世帯）したものの1,130世帯となった。

社会増減数をみると、令和4年は転入数が増加、転出数が減少した結果、273世帯の社会減となり、減少幅が縮小した。

尼崎市の三人以上世帯の社会増減数の推移



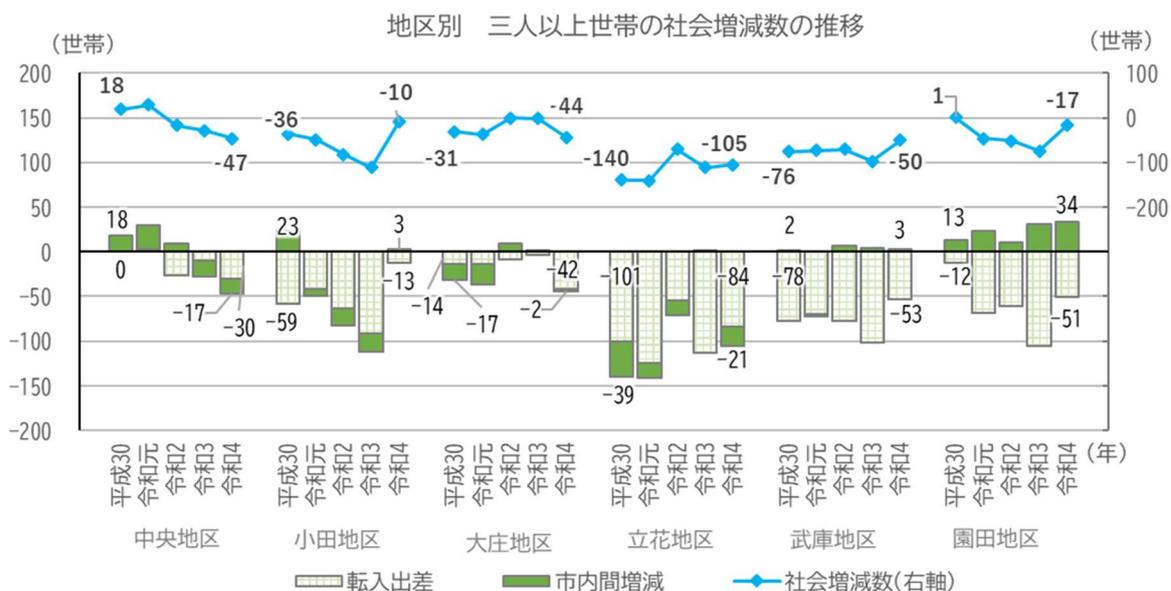
資料：尼崎市都市政策課

(2) 地区別

①社会増減

令和4年の社会増減数をみると、6地区とも社会減となり、立花地区（105世帯）、武庫地区（50世帯）、中央地区（47世帯）の順で減少している。最近5年間の推移をみると、中央地区は令和2年以降、社会減となり、ほか5地区も社会減の傾向にある。このうち、小田地区、武庫地区、園田地区では、令和4年の減少幅が前年より縮小した。

また、令和4年の社会増減数の内訳をみると、6地区とも転出超過であり、市内間増減は、小田地区、武庫地区、園田地区で増加した。



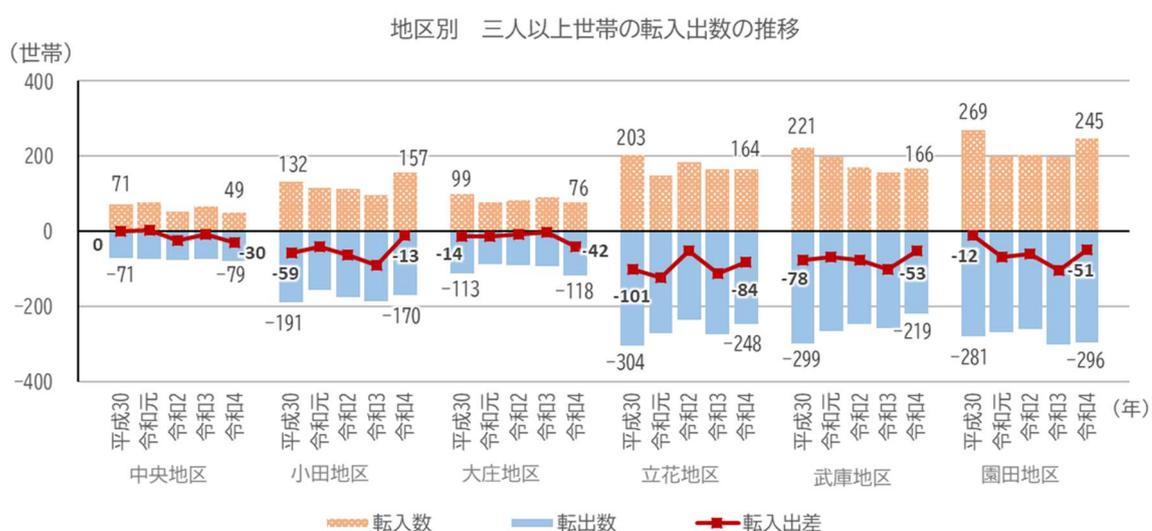
資料：尼崎市都市政策課

②転入出

令和4年の転入数は、園田地区（245世帯）、武庫地区（166世帯）、立花地区（164世帯）の順で多くなっている。また、前年と比べると、中央地区、大庄地区は減少し、平成30年と比べると、小田地区のみ増加し、ほか5地区では減少した。

令和4年の転出数は、園田地区（296世帯）、立花地区（248世帯）、武庫地区（219世帯）の順で多くなっている。最近5年間の推移でみると、立花地区、武庫地区では減少傾向にある。

また、転入出差をみると、令和4年は6地区とも転出超過となっている。転出超過数は立花地区（▲84世帯）、武庫地区（▲53世帯）、園田地区（▲51世帯）の順で多く、小田地区、立花地区、武庫地区、園田地区では、前年に比べて減少した。



資料：尼崎市都市政策課

三人以上世帯の転入数 (単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)	
						実数	増加率
全市	995	812	797	766	857	▲ 138	▲ 13.9%
中央地区	71	77	51	65	49	▲ 22	▲ 31.0%
小田地区	132	115	111	94	157	25	▲ 18.9%
大庄地区	99	75	81	90	76	▲ 23	▲ 23.2%
立花地区	203	147	183	163	164	▲ 39	▲ 19.2%
武庫地区	221	198	170	157	166	▲ 55	▲ 24.9%
園田地区	269	200	201	197	245	▲ 24	▲ 8.9%

資料：尼崎市都市政策課

三人以上世帯の転出数 (単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)	
						実数	増加率
全市	1,259	1,129	1,089	1,193	1,130	▲ 129	▲ 10.2%
中央地区	71	74	77	75	79	8	▲ 11.3%
小田地区	191	157	175	186	170	▲ 21	▲ 11.0%
大庄地区	113	89	90	94	118	5	▲ 4.4%
立花地区	304	272	237	276	248	▲ 56	▲ 18.4%
武庫地区	299	268	248	259	219	▲ 80	▲ 26.8%
園田地区	281	269	262	303	296	15	▲ 5.3%

資料：尼崎市都市政策課

三人以上世帯の転入出差（転入－転出） (単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)
全 市	▲ 264	▲ 317	▲ 292	▲ 427	▲ 273	▲ 9
中央地区	0	3	▲ 26	▲ 10	▲ 30	▲ 30
小田地区	▲ 59	▲ 42	▲ 64	▲ 92	▲ 13	46
大庄地区	▲ 14	▲ 14	▲ 9	▲ 4	▲ 42	▲ 28
立花地区	▲ 101	▲ 125	▲ 54	▲ 113	▲ 84	17
武庫地区	▲ 78	▲ 70	▲ 78	▲ 102	▲ 53	25
園田地区	▲ 12	▲ 69	▲ 61	▲ 106	▲ 51	▲ 39

資料：尼崎市都市政策課

三人以上世帯の市内転居（転居元） (単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)	
						実数	増加率
全 市	2,200	1,936	1,929	1,809	1,911	▲ 289	▲ 13.1%
中央地区	210	164	182	171	194	▲ 16	▲ 7.6%
小田地区	327	286	297	246	325	▲ 2	▲ 0.6%
大庄地区	242	204	225	172	187	▲ 55	▲ 22.7%
立花地区	546	470	446	423	431	▲ 115	▲ 21.1%
武庫地区	387	396	336	382	312	▲ 75	▲ 19.4%
園田地区	488	416	443	415	462	▲ 26	▲ 5.3%

資料：尼崎市都市政策課

三人以上世帯の市内転居（転居先） (単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)	
						実数	増加率
全 市	2,200	1,936	1,929	1,809	1,911	▲ 289	▲ 13.1%
中央地区	228	190	191	153	177	▲ 51	▲ 22.4%
小田地区	350	279	279	226	328	▲ 22	▲ 6.3%
大庄地区	225	181	234	174	185	▲ 40	▲ 17.8%
立花地区	507	454	429	424	410	▲ 97	▲ 19.1%
武庫地区	389	393	343	386	315	▲ 74	▲ 19.0%
園田地区	501	439	453	446	496	▲ 5	▲ 1.0%

資料：尼崎市都市政策課

三人以上世帯の市内間増減 (単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)
全 市	0	0	0	0	0	0
中央地区	18	26	9	▲ 18	▲ 17	▲ 35
小田地区	23	▲ 7	▲ 18	▲ 20	3	▲ 20
大庄地区	▲ 17	▲ 23	9	2	▲ 2	15
立花地区	▲ 39	▲ 16	▲ 17	1	▲ 21	18
武庫地区	2	▲ 3	7	4	3	1
園田地区	13	23	10	31	34	21

資料：尼崎市都市政策課

三人以上世帯の社会増減数（転入出差＋市内間増減） (単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)
全 市	▲ 264	▲ 317	▲ 292	▲ 427	▲ 273	▲ 9
中央地区	18	29	▲ 17	▲ 28	▲ 47	▲ 65
小田地区	▲ 36	▲ 49	▲ 82	▲ 112	▲ 10	26
大庄地区	▲ 31	▲ 37	0	▲ 2	▲ 44	▲ 13
立花地区	▲ 140	▲ 141	▲ 71	▲ 112	▲ 105	35
武庫地区	▲ 76	▲ 73	▲ 71	▲ 98	▲ 50	26
園田地区	1	▲ 46	▲ 51	▲ 75	▲ 17	▲ 18

資料：尼崎市都市政策課

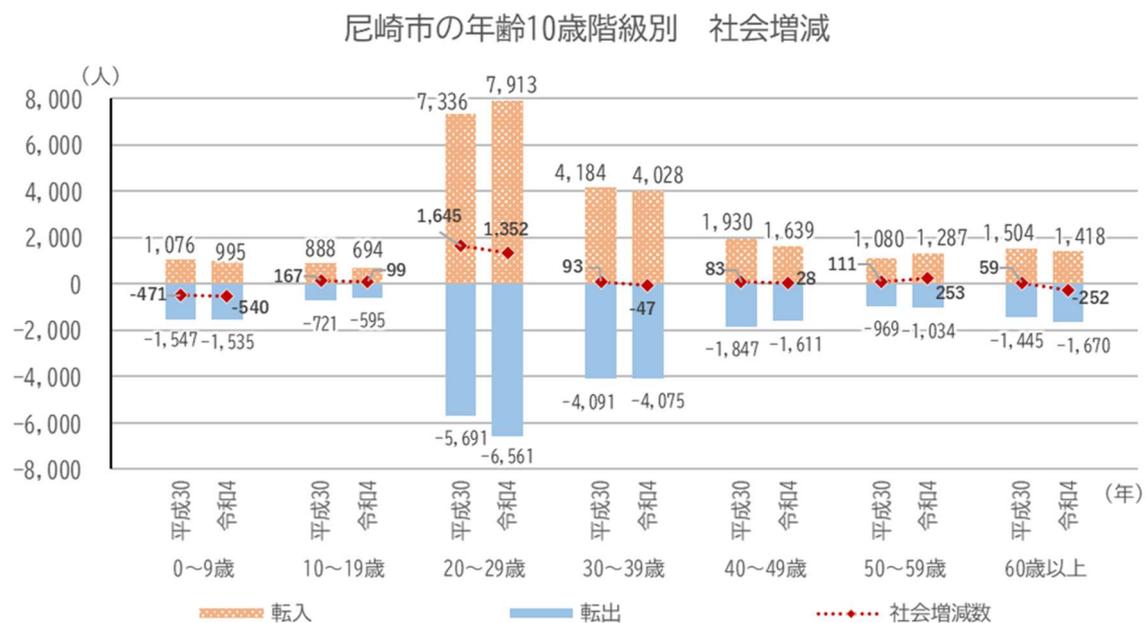
7 年齢別及び転入元・転出先別の移動数

(1) 年齢別の移動数

令和4年における年齢10歳階級別の転入出をみると、20～29歳は転入数が7,913人、転出数が6,561人とともに突出して多く、次いで、30～39歳で転入数が4,028人、転出数が4,075人と多くなっている。

社会増減数をみると、令和4年は、20～29歳（1,352人）、50～59歳（253人）、10～19歳（99人）、40～49歳（28人）の順で社会増となっている。一方で、0～9歳（▲540人）、60歳以上（▲252人）、30～39歳（▲47人）の順で社会減となっている。

社会増減数を平成30年と比べると、両年とも社会増である20～29歳は増加幅が293人の縮小となり、10～19歳及び40～49歳もともに縮小し、50～59歳は142人の拡大となった。両年とも社会減の0～9歳では、減少幅が69人の拡大となった。また、30～39歳及び60歳以上は社会増から社会減に転じた。



資料：尼崎市都市政策課

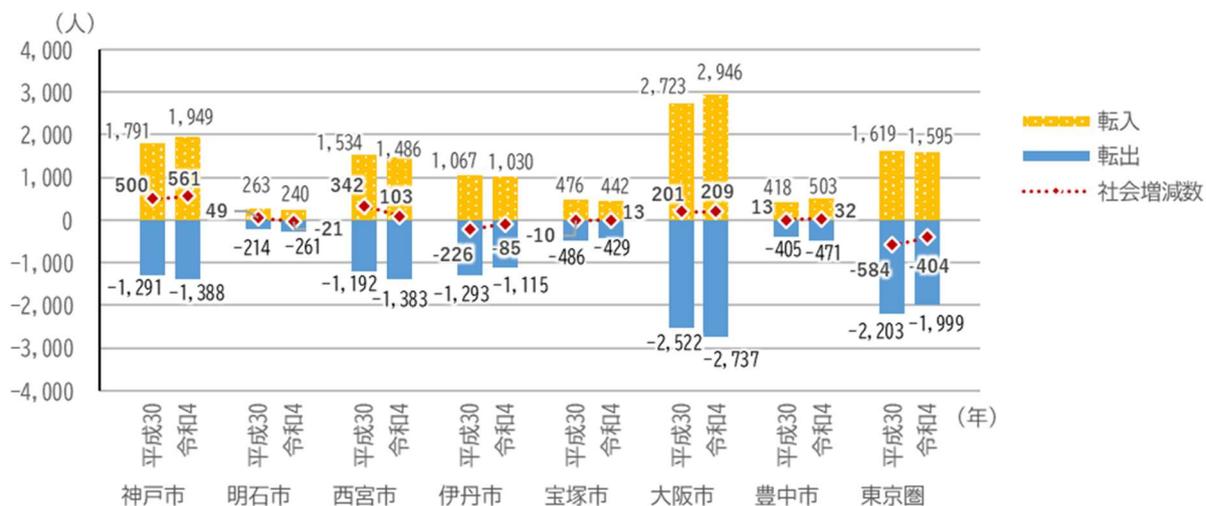
(2) 転入元・転出先別の移動数

主な転入元別に転入数をみると、令和4年は、大阪市（2,946人）、神戸市（1,949人）、東京圏（1,595人）の順で多い。平成30年と比べると、転入数が増加したのは、大阪市（223人）、神戸市（158人）、豊中市（85人）で、減少したのは、西宮市（▲48人）、伊丹市（▲37人）、宝塚市（▲34人）、東京圏（▲24人）、明石市（▲23人）である。

主な転出先別の転出数は、令和4年は、大阪市（2,737人）、東京圏（1,999人）、神戸市（1,388人）の順で多い。平成30年と比べると、転出数が増加したのは、大阪市（215人）、西宮市（191人）、神戸市（97人）、豊中市（66人）、明石市（47人）で、転出数が減少したのは、東京圏（▲204人）、伊丹市（▲178人）、宝塚市（▲57人）である。

社会増減数をみると、令和4年に転入超過となったのは、神戸市（561人）、大阪市（209人）、西宮市（103人）、豊中市（32人）、宝塚市（13人）である。また、平成30年に転入超過であった明石市は転出超過となり、転出超過であった宝塚市は転入超過となった。

尼崎市の主な転入元・転出先別 社会増減数



資料：尼崎市都市政策課

10歳階級別転入元別 転入数

(単位：人)

平成30年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	17,998	1,076	888	7,336	4,184	1,930	1,080	1,504	0
神戸市	1,791	80	78	777	421	198	91	146	0
明石市	263	17	23	112	55	23	16	17	0
西宮市	1,534	117	60	497	391	164	106	199	0
伊丹市	1,067	73	40	385	238	122	74	135	0
宝塚市	476	20	31	168	112	44	39	62	0
大阪市	2,723	146	90	1,088	775	290	167	167	0
豊中市	418	39	16	134	107	42	36	44	0
東京圏	1,619	138	50	640	405	206	120	60	0
その他	8,107	446	500	3,535	1,680	841	431	674	0
令和元年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	17,644	951	871	7,635	3,971	1,778	1,046	1,390	2
神戸市	1,786	70	72	825	422	169	99	129	0
明石市	195	5	10	97	58	8	7	10	0
西宮市	1,453	99	67	546	307	165	100	169	0
伊丹市	1,049	63	62	382	221	113	75	133	0
宝塚市	410	9	22	156	90	48	29	56	0
大阪市	2,729	152	93	1,079	758	273	163	211	0
豊中市	434	20	21	156	99	59	31	48	0
東京圏	1,536	117	33	643	362	203	119	59	0
その他	8,052	416	491	3,751	1,654	740	423	575	2
令和2年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	17,395	945	795	7,528	3,821	1,799	1,130	1,374	3
神戸市	1,790	62	65	821	445	152	100	145	0
明石市	219	12	11	105	54	15	11	11	0
西宮市	1,471	82	70	533	329	161	110	186	0
伊丹市	990	64	43	349	215	120	72	127	0
宝塚市	416	11	22	174	76	36	39	58	0
大阪市	2,733	157	79	1,090	746	312	182	167	0
豊中市	400	22	19	146	80	69	25	39	0
東京圏	1,561	139	66	616	348	204	117	71	0
その他	7,815	396	420	3,694	1,528	730	474	570	3
令和3年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	16,751	959	670	7,604	3,658	1,540	1,062	1,258	0
神戸市	1,708	76	50	822	421	138	91	110	0
明石市	266	11	14	126	65	25	6	19	0
西宮市	1,487	88	65	567	338	152	121	156	0
伊丹市	993	66	45	377	216	99	67	123	0
宝塚市	496	24	22	209	109	40	35	57	0
大阪市	2,643	170	61	1,116	734	255	155	152	0
豊中市	402	24	20	159	92	40	30	37	0
東京圏	1,423	110	35	604	308	177	131	58	0
その他	7,336	390	358	3,624	1,375	614	426	546	0
令和4年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	17,975	995	694	7,913	4,028	1,639	1,287	1,418	1
神戸市	1,949	80	82	910	465	168	99	145	0
明石市	240	12	15	114	58	19	17	5	0
西宮市	1,486	75	55	543	299	164	132	218	0
伊丹市	1,030	46	37	411	225	109	91	111	0
宝塚市	442	24	17	164	102	48	40	47	0
大阪市	2,946	175	76	1,274	802	269	192	158	0
豊中市	503	34	19	183	132	45	32	58	0
東京圏	1,595	135	31	668	365	158	164	74	0
その他	7,784	414	362	3,646	1,580	659	520	602	1

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(注) 各年とも外国人の移動を含む。

10歳階級別転出先別 転出数

(単位：人)

平成30年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	16,311	1,547	721	5,691	4,091	1,847	969	1,445	0
神戸市	1,291	118	46	452	350	152	64	109	0
明石市	214	33	12	70	60	11	10	18	0
西宮市	1,192	119	55	381	304	135	79	119	0
伊丹市	1,293	201	53	328	371	127	84	129	0
宝塚市	486	61	21	130	126	59	45	44	0
大阪市	2,522	102	83	1,041	609	291	148	248	0
豊中市	405	33	23	131	108	44	33	33	0
東京圏	2,203	194	91	910	547	252	131	78	0
その他	6,705	686	337	2,248	1,616	776	375	667	0
令和元年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	16,421	1,546	658	5,832	4,061	1,847	1,003	1,461	13
神戸市	1,273	115	56	429	361	114	73	125	0
明石市	215	25	6	84	60	18	7	15	0
西宮市	1,366	177	68	374	339	160	87	161	0
伊丹市	1,089	165	34	301	283	117	66	123	0
宝塚市	506	72	15	130	135	66	35	53	0
大阪市	2,724	123	93	1,080	715	298	159	256	0
豊中市	414	39	14	123	111	51	37	39	0
東京圏	2,298	205	89	975	537	265	149	78	0
その他	6,536	625	283	2,336	1,520	758	390	611	13
令和2年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	16,467	1,514	624	6,219	3,972	1,697	1,030	1,409	2
神戸市	1,368	131	32	510	341	158	84	112	0
明石市	256	37	11	89	63	31	11	14	0
西宮市	1,325	152	44	366	356	153	110	144	0
伊丹市	1,114	174	40	309	289	131	68	103	0
宝塚市	457	68	20	123	134	43	25	44	0
大阪市	2,746	112	71	1,227	681	255	157	243	0
豊中市	447	38	10	157	108	50	30	54	0
東京圏	1,982	147	86	919	445	202	110	73	0
その他	6,772	655	310	2,519	1,555	674	435	622	2
令和3年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	17,207	1,572	620	6,588	4,092	1,762	1,078	1,494	1
神戸市	1,458	144	37	578	346	148	96	109	0
明石市	219	32	11	81	64	7	4	20	0
西宮市	1,467	146	62	421	418	152	103	165	0
伊丹市	1,283	176	47	349	359	133	74	145	0
宝塚市	469	69	15	139	126	47	31	42	0
大阪市	2,766	101	65	1,266	628	274	155	277	0
豊中市	461	43	16	163	105	54	36	44	0
東京圏	1,907	131	78	886	407	211	127	67	0
その他	7,177	730	289	2,705	1,639	736	452	625	1
令和4年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	17,084	1,535	595	6,561	4,075	1,611	1,034	1,670	3
神戸市	1,388	123	40	538	364	130	77	116	0
明石市	261	41	11	106	66	17	5	15	0
西宮市	1,383	151	54	422	344	150	88	174	0
伊丹市	1,115	157	60	285	309	104	75	125	0
宝塚市	429	47	12	134	129	33	28	46	0
大阪市	2,737	111	69	1,192	671	240	168	286	0
豊中市	471	39	17	148	121	42	32	72	0
東京圏	1,999	152	70	957	432	192	102	94	0
その他	7,301	714	262	2,779	1,639	703	459	742	3

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(注) 各年とも外国人の移動を含む。

10歳階級別 転入元・転出先別 社会増減数

(単位：人)

平成30年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	1,687	▲ 471	167	1,645	93	83	111	59	0
神戸市	500	▲ 38	32	325	71	46	27	37	0
明石市	49	▲ 16	11	42	▲ 5	12	6	▲ 1	0
西宮市	342	▲ 2	5	116	87	29	27	80	0
伊丹市	▲ 226	▲ 128	▲ 13	57	▲ 133	▲ 5	▲ 10	6	0
宝塚市	▲ 10	▲ 41	10	38	▲ 14	▲ 15	▲ 6	18	0
大阪市	201	44	7	47	166	▲ 1	19	▲ 81	0
豊中市	13	6	▲ 7	3	▲ 1	▲ 2	3	11	0
東京圏	▲ 584	▲ 56	▲ 41	▲ 270	▲ 142	▲ 46	▲ 11	▲ 18	0
その他	1,402	▲ 240	163	1,287	64	65	56	7	0
令和元年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	1,223	▲ 595	213	1,803	▲ 90	▲ 69	43	▲ 71	▲ 11
神戸市	513	▲ 45	16	396	61	55	26	4	0
明石市	▲ 20	▲ 20	4	13	▲ 2	▲ 10	0	▲ 5	0
西宮市	87	▲ 78	▲ 1	172	▲ 32	5	13	8	0
伊丹市	▲ 40	▲ 102	28	81	▲ 62	▲ 4	9	10	0
宝塚市	▲ 96	▲ 63	7	26	▲ 45	▲ 18	▲ 6	3	0
大阪市	5	29	0	▲ 1	43	▲ 25	4	▲ 45	0
豊中市	20	▲ 19	7	33	▲ 12	8	▲ 6	9	0
東京圏	▲ 762	▲ 88	▲ 56	▲ 332	▲ 175	▲ 62	▲ 30	▲ 19	0
その他	1,527	▲ 209	208	1,415	134	▲ 18	33	▲ 36	▲ 11
令和2年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	928	▲ 569	171	1,309	▲ 151	102	100	▲ 35	1
神戸市	422	▲ 69	33	311	104	▲ 6	16	33	0
明石市	▲ 37	▲ 25	0	16	▲ 9	▲ 16	0	▲ 3	0
西宮市	146	▲ 70	26	167	▲ 27	8	0	42	0
伊丹市	▲ 124	▲ 110	3	40	▲ 74	▲ 11	4	24	0
宝塚市	▲ 41	▲ 57	2	51	▲ 58	▲ 7	14	14	0
大阪市	▲ 13	45	8	▲ 137	65	57	25	▲ 76	0
豊中市	▲ 47	▲ 16	9	▲ 11	▲ 28	19	▲ 5	▲ 15	0
東京圏	▲ 421	▲ 8	▲ 20	▲ 303	▲ 97	2	7	▲ 2	0
その他	1,043	▲ 259	110	1,175	▲ 27	56	39	▲ 52	1
令和3年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	▲ 456	▲ 613	50	1,016	▲ 434	▲ 222	▲ 16	▲ 236	▲ 1
神戸市	250	▲ 68	13	244	75	▲ 10	▲ 5	1	0
明石市	47	▲ 21	3	45	1	18	2	▲ 1	0
西宮市	20	▲ 58	3	146	▲ 80	0	18	▲ 9	0
伊丹市	▲ 290	▲ 110	▲ 2	28	▲ 143	▲ 34	▲ 7	▲ 22	0
宝塚市	27	▲ 45	7	70	▲ 17	▲ 7	4	15	0
大阪市	▲ 123	69	▲ 4	▲ 150	106	▲ 19	0	▲ 125	0
豊中市	▲ 59	▲ 19	4	▲ 4	▲ 13	▲ 14	▲ 6	▲ 7	0
東京圏	▲ 484	▲ 21	▲ 43	▲ 282	▲ 99	▲ 34	4	▲ 9	0
その他	158	▲ 340	69	919	▲ 264	▲ 122	▲ 26	▲ 79	▲ 1
令和4年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	891	▲ 540	99	1,352	▲ 47	28	253	▲ 252	▲ 2
神戸市	561	▲ 43	42	372	101	38	22	29	0
明石市	▲ 21	▲ 29	4	8	▲ 8	2	12	▲ 10	0
西宮市	103	▲ 76	1	121	▲ 45	14	44	44	0
伊丹市	▲ 85	▲ 111	▲ 23	126	▲ 84	5	16	▲ 14	0
宝塚市	13	▲ 23	5	30	▲ 27	15	12	1	0
大阪市	209	64	7	82	131	29	24	▲ 128	0
豊中市	32	▲ 5	2	35	11	3	0	▲ 14	0
東京圏	▲ 404	▲ 17	▲ 39	▲ 289	▲ 67	▲ 34	62	▲ 20	0
その他	483	▲ 300	100	867	▲ 59	▲ 44	61	▲ 140	▲ 2

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(注) 各年とも外国人の移動を含む。

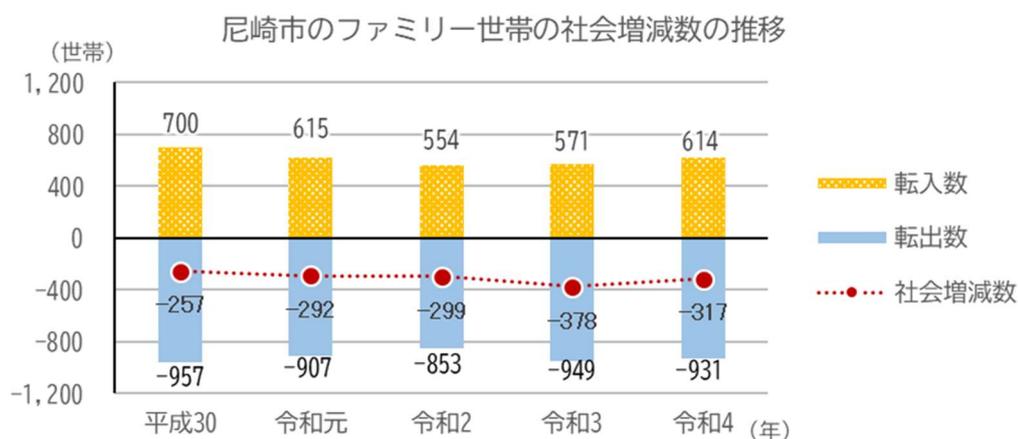
Ⅲ ファミリー世帯の社会動態

1 社会動態

(1) 全市

ファミリー世帯（本報告書では、世帯主と5歳未満の子どもがいる世帯を指す。）の社会動態をみると、令和4年は、転入数が前年より7.5%増加（43世帯）して614世帯、転出数が1.9%減少（▲18世帯）して931世帯となった。転出数が転入数を上回って317世帯の社会減となった。

また、社会増減数の推移をみると、最近5年間は社会減にあり、減少数は拡大が続いていたが、令和4年は減少幅が前年より16.1%（▲61世帯）縮小した。



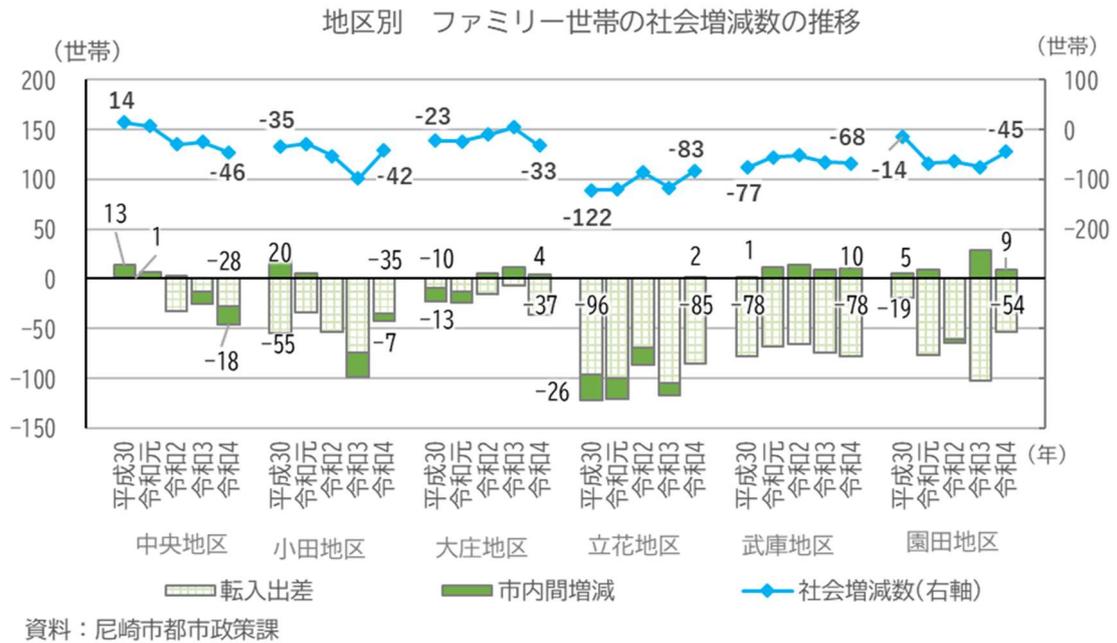
資料：尼崎市都市政策課

(2) 地区別

①社会増減

令和4年の社会増減数をみると、6地区すべてで社会減となり、減少数は立花地区（▲83世帯）、武庫地区（▲68世帯）、中央地区（▲46世帯）の順が多い。最近5年間の推移をみると、中央地区は社会増から社会減に転じ、減少数は年々拡大している。ほか5地区ではおおむね社会減が続いているが、令和4年は、小田地区、立花地区、園田地区で、前年に比べ減少数の縮小がみられた。

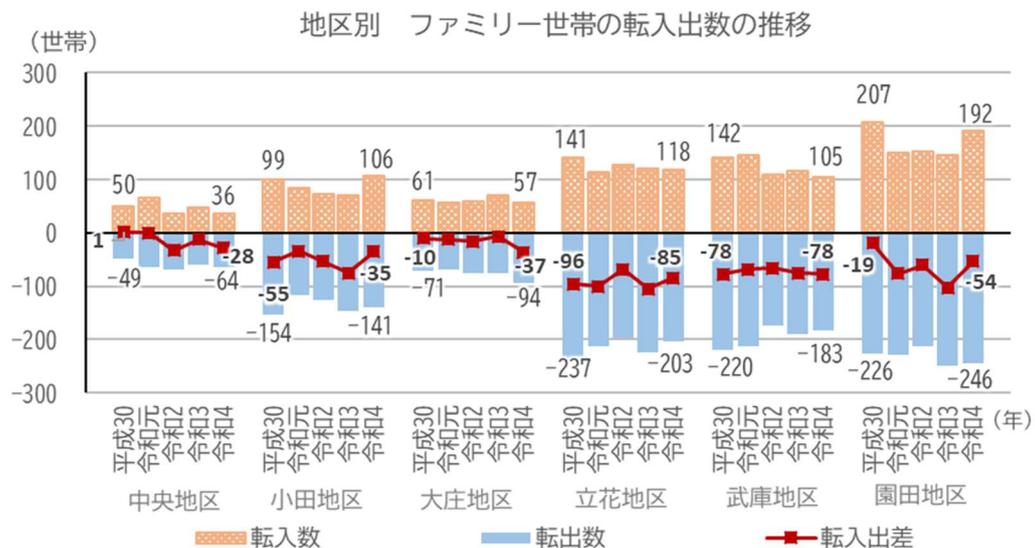
また、社会増減数の内訳として転入出差をみると、最近5年間では、6地区ともおおむね転出超過となっている。市内間増減をみると、令和4年は、中央地区、小田地区では、前年から引き続き減少となっており、立花地区では、平成30年から続いていた市内間増減の減少が、増加へと転じている。



② 転入出

令和4年の転入数は、園田地区（192世帯）、立花地区（118世帯）、小田地区（106世帯）の順で多く、最近5年間を通してみると、中央地区、立花地区、武庫地区は減少傾向にある。また、令和4年の転出数は、園田地区（246世帯）、立花地区（203世帯）、武庫地区（183世帯）の順で多く、最近5年間を通してみると、立花地区、武庫地区では転出数が減少傾向にある。

転入出差をみると、令和4年は6地区で転出超過となり、超過数は立花地区（▲85世帯）、武庫地区（▲78世帯）、園田地区（▲54世帯）の順が多い。また、小田地区、立花地区、園田地区は、前年に比べて転出超過数が縮小し、中央地区、大庄地区、武庫地区では拡大した。



ファミリー世帯の転入数

(単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4年度)	
						実数	増加率
全 市	700	615	554	571	614	▲ 86	▲ 12.3%
中央地区	50	65	35	48	36	▲ 14	▲ 28.0%
小田地区	99	83	72	71	106	7	7.1%
大庄地区	61	57	59	70	57	▲ 4	▲ 6.6%
立花地区	141	114	128	120	118	▲ 23	▲ 16.3%
武庫地区	142	145	108	116	105	▲ 37	▲ 26.1%
園田地区	207	151	152	146	192	▲ 15	▲ 7.2%

資料：尼崎市都市政策課

ファミリー世帯の転出数

(単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4年度)	
						実数	増加率
全 市	957	907	853	949	931	▲ 26	▲ 2.7%
中央地区	49	65	68	61	64	15	30.6%
小田地区	154	117	126	146	141	▲ 13	▲ 8.4%
大庄地区	71	70	75	77	94	23	32.4%
立花地区	237	214	197	225	203	▲ 34	▲ 14.3%
武庫地区	220	213	174	191	183	▲ 37	▲ 16.8%
園田地区	226	228	213	249	246	20	8.8%

資料：尼崎市都市政策課

ファミリー世帯の転入出差 (転入-転出)

(単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)
全 市	▲ 257	▲ 292	▲ 299	▲ 378	▲ 317	▲ 60
中央地区	1	0	▲ 33	▲ 13	▲ 28	▲ 29
小田地区	▲ 55	▲ 34	▲ 54	▲ 75	▲ 35	20
大庄地区	▲ 10	▲ 13	▲ 16	▲ 7	▲ 37	▲ 27
立花地区	▲ 96	▲ 100	▲ 69	▲ 105	▲ 85	11
武庫地区	▲ 78	▲ 68	▲ 66	▲ 75	▲ 78	0
園田地区	▲ 19	▲ 77	▲ 61	▲ 103	▲ 54	▲ 35

資料：尼崎市都市政策課

ファミリー世帯の市内転居 (転居元)

(単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4年度)	
						実数	増加率
全 市	1,308	1,114	1,184	1,152	1,241	▲ 67	▲ 5.1%
中央地区	130	118	114	107	117	▲ 13	▲ 10.0%
小田地区	206	165	178	159	225	19	9.2%
大庄地区	140	111	140	105	121	▲ 19	▲ 13.6%
立花地区	325	273	282	277	284	▲ 41	▲ 12.6%
武庫地区	214	194	192	219	178	▲ 36	▲ 16.8%
園田地区	293	253	278	285	316	23	7.8%

資料：尼崎市都市政策課

ファミリー世帯の市内転居 (転居先)

(単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4年度)	
						実数	増加率
全 市	1,308	1,114	1,184	1,152	1,241	▲ 67	▲ 5.1%
中央地区	143	124	117	95	99	▲ 44	▲ 30.8%
小田地区	226	170	178	135	218	▲ 8	▲ 3.5%
大庄地区	127	100	145	116	125	▲ 2	▲ 1.6%
立花地区	299	252	264	265	286	▲ 13	▲ 4.3%
武庫地区	215	206	206	228	188	▲ 27	▲ 12.6%
園田地区	298	262	274	313	325	27	9.1%

資料：尼崎市都市政策課

ファミリー世帯の市内間増減

(単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)
全 市	0	0	0	0	0	0
中央地区	13	6	3	▲ 12	▲ 31	▲ 31
小田地区	20	5	0	▲ 24	▲ 7	▲ 27
大庄地区	▲ 13	▲ 11	5	11	4	17
立花地区	▲ 26	▲ 21	▲ 18	▲ 12	2	28
武庫地区	1	12	14	9	10	9
園田地区	5	9	▲ 4	28	9	4

資料：尼崎市都市政策課

ファミリー世帯の社会増減数（転入出差+市内間増減） (単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)
全 市	▲ 257	▲ 292	▲ 299	▲ 378	▲ 317	▲ 60
中央地区	14	6	▲ 30	▲ 25	▲ 46	▲ 60
小田地区	▲ 35	▲ 29	▲ 54	▲ 99	▲ 42	▲ 7
大庄地区	▲ 23	▲ 24	▲ 11	4	▲ 33	▲ 10
立花地区	▲ 122	▲ 121	▲ 87	▲ 117	▲ 83	39
武庫地区	▲ 77	▲ 56	▲ 52	▲ 66	▲ 68	9
園田地区	▲ 14	▲ 68	▲ 65	▲ 75	▲ 45	▲ 31

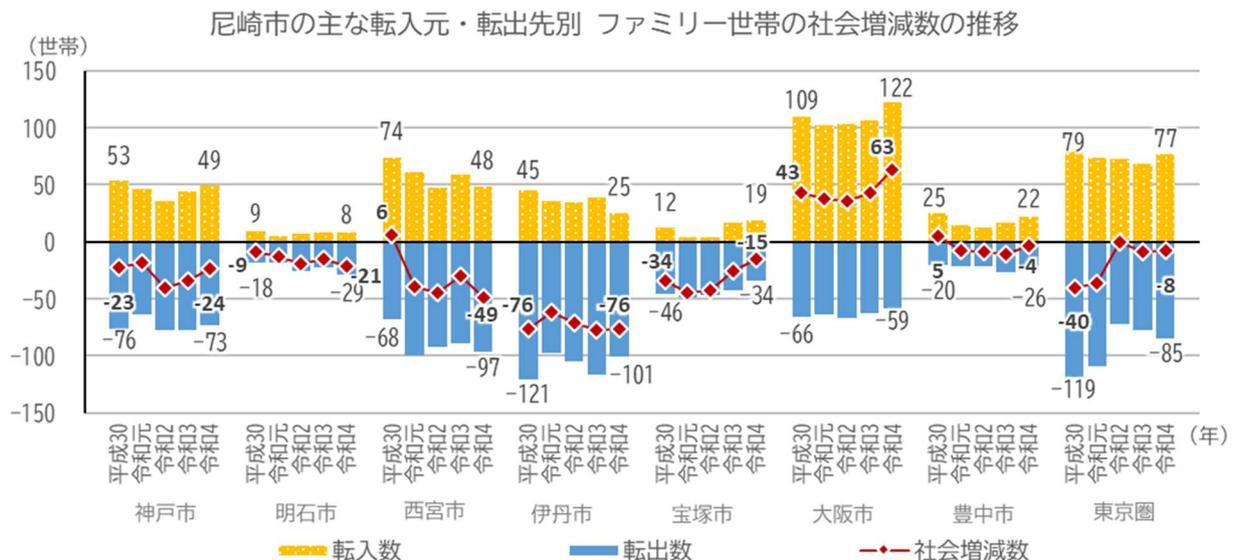
資料：尼崎市都市政策課

2 転入元・転出先別の移動数

主な転入元別に転入数をみると、令和4年は、大阪市(122世帯)、東京圏(77世帯)、神戸市(49世帯)の順で多くなっている。最近5年間では、西宮市、伊丹市は、転入数が減少傾向にある。東京圏は減少が続いていたが、令和4年に増加に転じた。

主な転出先別に転出数をみると、令和4年は、伊丹市(▲101世帯)、西宮市(▲97世帯)東京圏(▲85世帯)の順が多い。最近5年間では、西宮市、明石市への転出数が増加傾向にある。

転入出差をみると、令和4年は、大阪市に対しては転入超過(63世帯)、そのほかの市や地域に対しては転出超過となっている。転出超過数は、伊丹市(▲76世帯)、西宮市(▲49世帯)、神戸市(▲24世帯)の順が多い。最近5年間の推移をみると、大阪市は転入超過が続いており、超過数は拡大傾向にある。また、転出超過数は明石市、西宮市へは拡大傾向にあり、宝塚市、東京圏へは縮小傾向にある。



ファミリー世帯の転入元別転入数 (単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4年度)	
						実数	増加率
合計	700	615	554	571	614	▲ 86	▲ 12.3%
神戸市	53	46	36	44	49	▲ 4	▲ 7.5%
明石市	9	5	7	8	8	▲ 1	▲ 11.1%
西宮市	74	61	47	59	48	▲ 26	▲ 35.1%
伊丹市	45	36	34	39	25	▲ 20	▲ 44.4%
宝塚市	12	4	4	17	19	7	58.3%
大阪市	109	102	103	106	122	13	11.9%
豊中市	25	14	12	16	22	▲ 3	▲ 12.0%
東京圏	79	73	72	68	77	▲ 2	▲ 2.5%
その他	294	274	239	214	244	▲ 50	▲ 17.0%

資料：尼崎市都市政策課

ファミリー世帯の転出先別転出数 (単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4年度)	
						実数	増加率
合計	957	907	853	949	931	▲ 26	▲ 2.7%
神戸市	76	64	77	78	73	▲ 3	▲ 3.9%
明石市	18	18	26	23	29	11	61.1%
西宮市	68	100	92	89	97	29	42.6%
伊丹市	121	98	105	117	101	▲ 20	▲ 16.5%
宝塚市	46	49	47	43	34	▲ 12	▲ 26.1%
大阪市	66	64	67	63	59	▲ 7	▲ 10.6%
豊中市	20	22	21	27	26	6	30.0%
東京圏	119	109	72	77	85	▲ 34	▲ 28.6%
その他	423	383	346	432	427	4	0.9%

資料：尼崎市都市政策課

ファミリー世帯の社会増減数 (転入－転出) (単位：世帯)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	変化 (H30-R4)
合計	▲ 257	▲ 292	▲ 299	▲ 378	▲ 317	▲ 60
神戸市	▲ 23	▲ 18	▲ 41	▲ 34	▲ 24	▲ 1
明石市	▲ 9	▲ 13	▲ 19	▲ 15	▲ 21	▲ 12
西宮市	6	▲ 39	▲ 45	▲ 30	▲ 49	▲ 55
伊丹市	▲ 76	▲ 62	▲ 71	▲ 78	▲ 76	0
宝塚市	▲ 34	▲ 45	▲ 43	▲ 26	▲ 15	19
大阪市	43	38	36	43	63	20
豊中市	5	▲ 8	▲ 9	▲ 11	▲ 4	▲ 9
東京圏	▲ 40	▲ 36	0	▲ 9	▲ 8	32
その他	▲ 129	▲ 109	▲ 107	▲ 218	▲ 183	▲ 54

資料：尼崎市都市政策課

3 町丁目別移動

ファミリー世帯の社会増減を詳細に把握するために、地区ごとに転入・転出超過数が多い町丁目を掲出した。転入超過となっている町丁目を見ると、令和4年は、小田地区の「長洲西通1丁目」(72世帯)、園田地区の「小中島1丁目」(58世帯)、「食満5丁目」(36世帯)で超過数が多くなっている。

一方、転出超過となっている町丁目を見ると、武庫地区の「南武庫之荘7丁目」(25世帯)、小田地区の「潮江1丁目」(24世帯)、園田地区の「南塚口町3丁目」(20世帯)が多くなっている。

町丁目別 ファミリー世帯の転入超過数（上位5位、単位：世帯）

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年					
中央地区	北竹谷町1丁目	16	東難波町4丁目	14	西大物町	7	西難波町6丁目	5		
	東難波町4丁目	13	西難波町3丁目	6	東難波町4丁目	5	西大物町	5		
	南城内	8	北竹谷町1丁目	5						
	西難波町3丁目	5								
小田地区	下坂部3丁目	25	杭瀬北新町3丁目	10	長洲中通3丁目	8	長洲中通3丁目	7	長洲西通1丁目	72
	久々知西町1丁目	11	長洲中通3丁目	9	常光寺1丁目	7	長洲中通2丁目	6	次屋3丁目	7
	杭瀬北新町3丁目	11	久々知西町1丁目	6	杭瀬寺島1丁目	6	神崎町	5	今福1丁目	6
	善法寺町	8	杭瀬南新町4丁目	5	長洲東通1丁目	6			久々知1丁目	5
	久々知2丁目	6	長洲中通2丁目	5	杭瀬北新町3丁目	5				
大庄地区	崇徳院3丁目	6		蓬川町	6	大庄西町4丁目	21	大島3丁目	8	
	元浜町3丁目	5		大庄西町4丁目	6	大庄北1丁目	6	大庄北5丁目	7	
				稲葉元町3丁目	5	菜切山町	5	大島2丁目	5	
立花地区	富松町1丁目	37	富松町3丁目	6	富松町4丁目	10	尾浜町2丁目	10	南武庫之荘2丁目	8
	水堂町2丁目	9	上ノ島町2丁目	6	富松町2丁目	9	栗山町2丁目	10	塚口町3丁目	6
	南塚口町7丁目	5	三反田町2丁目	5	水堂町2丁目	8	富松町4丁目	8	大西町1丁目	6
	富松町4丁目	5			塚口町4丁目	7	上ノ島町2丁目	7	尾浜町2丁目	5
	塚口本町5丁目	5			三反田町1丁目	6	南塚口町8丁目	5	栗山町2丁目	5
武庫地区	武庫之荘6丁目	11	武庫町1丁目	15	武庫之荘西2丁目	9	西昆陽2丁目	11	西昆陽2丁目	10
	武庫之荘7丁目	10	武庫之荘7丁目	12	武庫の里2丁目	7	武庫之荘本町2丁目	10	武庫之荘5丁目	6
	武庫元町1丁目	10	武庫之荘6丁目	8	武庫町2丁目	6	武庫の里2丁目	8	武庫の里2丁目	6
	南武庫之荘9丁目	6	武庫之荘8丁目	7	武庫豊町3丁目	5	武庫之荘8丁目	8	武庫之荘7丁目	5
	武庫の里1丁目	5	武庫の里1丁目	5	武庫之荘本町1丁目	5	武庫の里2丁目	8		
園田地区	上坂部1丁目	102	南塚口町6丁目	22	東塚口町1丁目	48	南塚口町6丁目	28	小中島1丁目	58
	南塚口町4丁目	17	瓦宮2丁目	6	若王寺2丁目	8	若王寺3丁目	24	食満5丁目	36
	東園田町8丁目	8	小中島2丁目	5	東園田町3丁目	6	田能1丁目	16	若王寺3丁目	15
	瓦宮1丁目	6	田能5丁目	5	南塚口町6丁目	6	食満7丁目	7	田能3丁目	12
			食満7丁目	5	戸ノ内町2丁目	5	東園田町8丁目	6	食満7丁目	11

資料：尼崎市都市政策課

（注1）市内転居による地区間移動を含む

（注2）4世帯以下の町丁目は、上位5位内でも省略

町丁目別 ファミリー世帯の転入超過数（上位5位、単位：世帯）

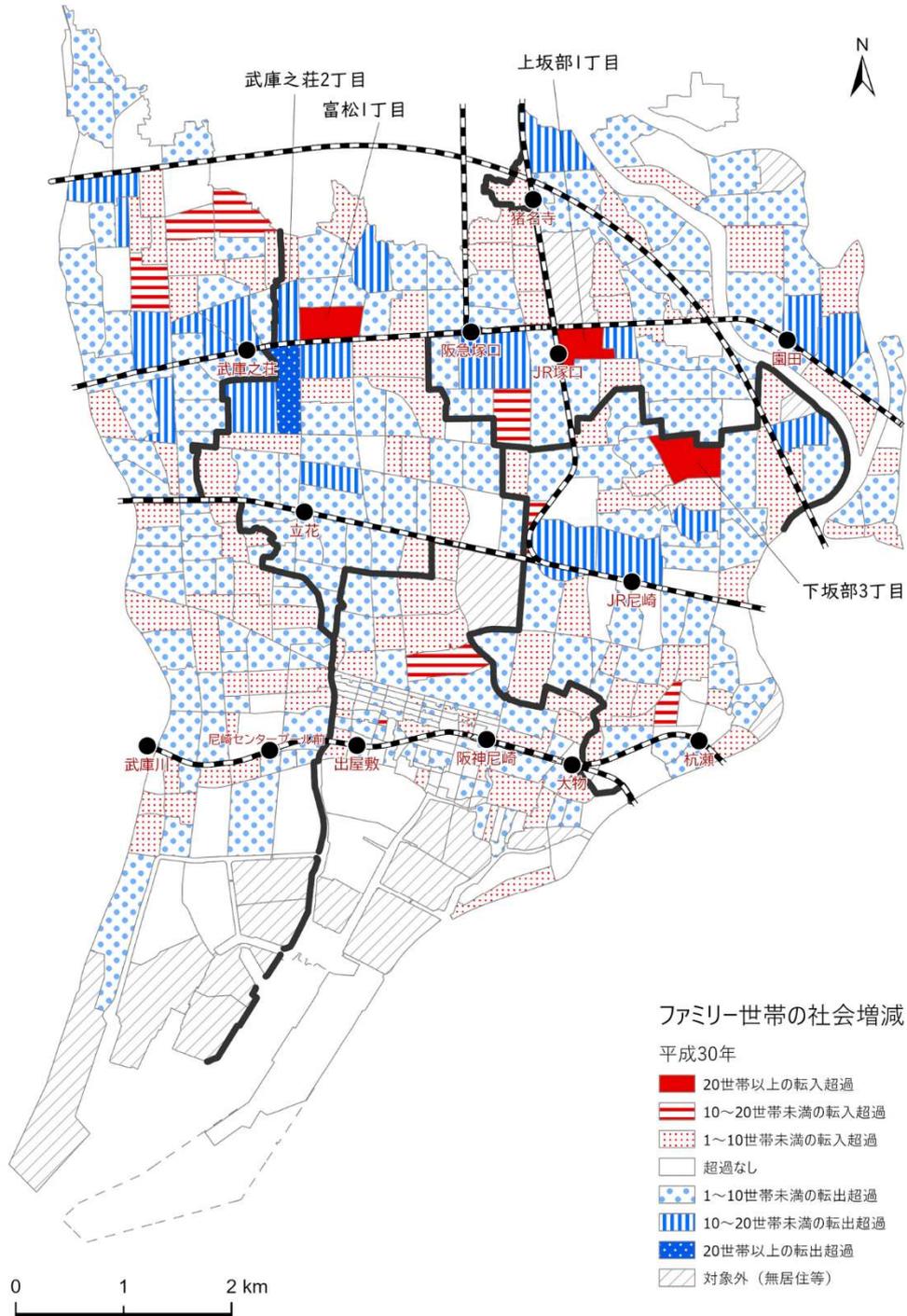
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年					
中央地区	東難波町5丁目	▲9		東難波町3丁目	▲9	東難波町5丁目	▲10	御園町	▲7	
	西難波町1丁目	▲8		昭通2丁目	▲6			西難波町2丁目	▲6	
小田地区				神田北通4丁目	▲5			東難波町5丁目	▲6	
				大物町2丁目	▲5			建家町	▲5	
	潮江5丁目	▲18	浜2丁目	▲7	潮江5丁目	▲15	潮江1丁目	▲16	開明町2丁目	▲5
	額田町	▲17	今福1丁目	▲7	額田町	▲9	西川2丁目	▲11	西難波町1丁目	▲5
	潮江1丁目	▲13	西川2丁目	▲7	神崎町	▲7	潮江3丁目	▲7	東難波町4丁目	▲5
	次屋1丁目	▲10	潮江1丁目	▲6	今福1丁目	▲7	額田町	▲7		
	潮江2丁目	▲6	常光寺3丁目	▲6	潮江2丁目	▲6	善法寺町	▲6	潮江5丁目	▲9
浜2丁目	▲6	金楽寺町2丁目	▲6	長洲東通3丁目	▲6			長洲本通1丁目	▲9	
浜3丁目	▲6									
大庄地区	大庄中通1丁目	▲5	稲葉元町1丁目	▲7	大庄川田町	▲6	大庄川田町	▲6	浜田町3丁目	▲7
	道意町6丁目	▲5	崇徳院2丁目	▲5	大庄中通1丁目	▲6			大庄川田町	▲7
	大庄西町3丁目	▲5	大庄西町1丁目	▲5	大庄西町1丁目	▲6			稲葉荘2丁目	▲7
				浜田町3丁目	▲5			稲葉元町2丁目	▲6	
								大島1丁目	▲6	
立花地区	南武庫之荘2丁目	▲20	南武庫之荘2丁目	▲23	南武庫之荘3丁目	▲22	塚口本町1丁目	▲18	上ノ島町1丁目	▲18
	南武庫之荘3丁目	▲15	上ノ島町3丁目	▲15	塚口町1丁目	▲14	七松町2丁目	▲13	塚口本町1丁目	▲14
	武庫之荘東2丁目	▲15	塚口本町1丁目	▲14	武庫之荘東2丁目	▲13	南武庫之荘3丁目	▲13	塚口町1丁目	▲13
	立花町2丁目	▲11	南武庫之荘3丁目	▲9	三反田町2丁目	▲11	南武庫之荘2丁目	▲10	立花町2丁目	▲12
	塚口町6丁目	▲10	名神町2丁目	▲8	塚口本町1丁目	▲11	武庫之荘東2丁目	▲10	東七松町1丁目	▲11
上ノ島町1丁目	▲10	上ノ島町1丁目	▲8					七松町3丁目	▲11	
								上ノ島町3丁目	▲11	
武庫地区	武庫之荘2丁目	▲13	南武庫之荘4丁目	▲16	南武庫之荘7丁目	▲20	武庫之荘2丁目	11	南武庫之荘7丁目	▲25
	武庫之荘1丁目	▲12	南武庫之荘5丁目	▲14	南武庫之荘1丁目	▲17	武庫町2丁目	11	南武庫之荘4丁目	▲15
	常松1丁目	▲12	南武庫之荘7丁目	▲13	南武庫之荘4丁目	▲13	武庫之荘1丁目	10	武庫元町1丁目	▲14
	武庫町1丁目	▲11	武庫之荘東1丁目	▲11	南武庫之荘8丁目	▲12	南武庫之荘5丁目	10	南武庫之荘6丁目	▲11
	南武庫之荘7丁目	▲10	武庫元町1丁目	▲10	南武庫之荘5丁目	▲8	南武庫之荘7丁目	10	武庫之荘1丁目	▲10
常吉2丁目	▲10							南武庫之荘1丁目	▲10	
園田地区	東園田町5丁目	▲15	南塚口町2丁目	▲17	東園田町5丁目	▲14	南清水	▲18	南塚口町3丁目	▲20
	南塚口町3丁目	▲15	猪名寺1丁目	▲11	南塚口町3丁目	▲14	南塚口町3丁目	▲16	椎堂1丁目	▲18
	東園田町6丁目	▲12	東園田町6丁目	▲10	小中島3丁目	▲11	上坂部2丁目	▲16	上坂部1丁目	▲12
	南塚口町2丁目	▲11	南塚口町5丁目	▲9	御園3丁目	▲11	南塚口町5丁目	▲12	御園3丁目	▲12
	猪名寺1丁目	▲10	東園田町2丁目	▲8	南塚口町5丁目	▲9	東園田町5丁目	▲11	上坂部2丁目	▲11
	御園3丁目	▲10	東園田町4丁目	▲8	南清水	▲9			上坂部2丁目	▲11
									御園1丁目	▲11

資料：尼崎市都市政策課

（注1）市内転居による地区間移動を含む

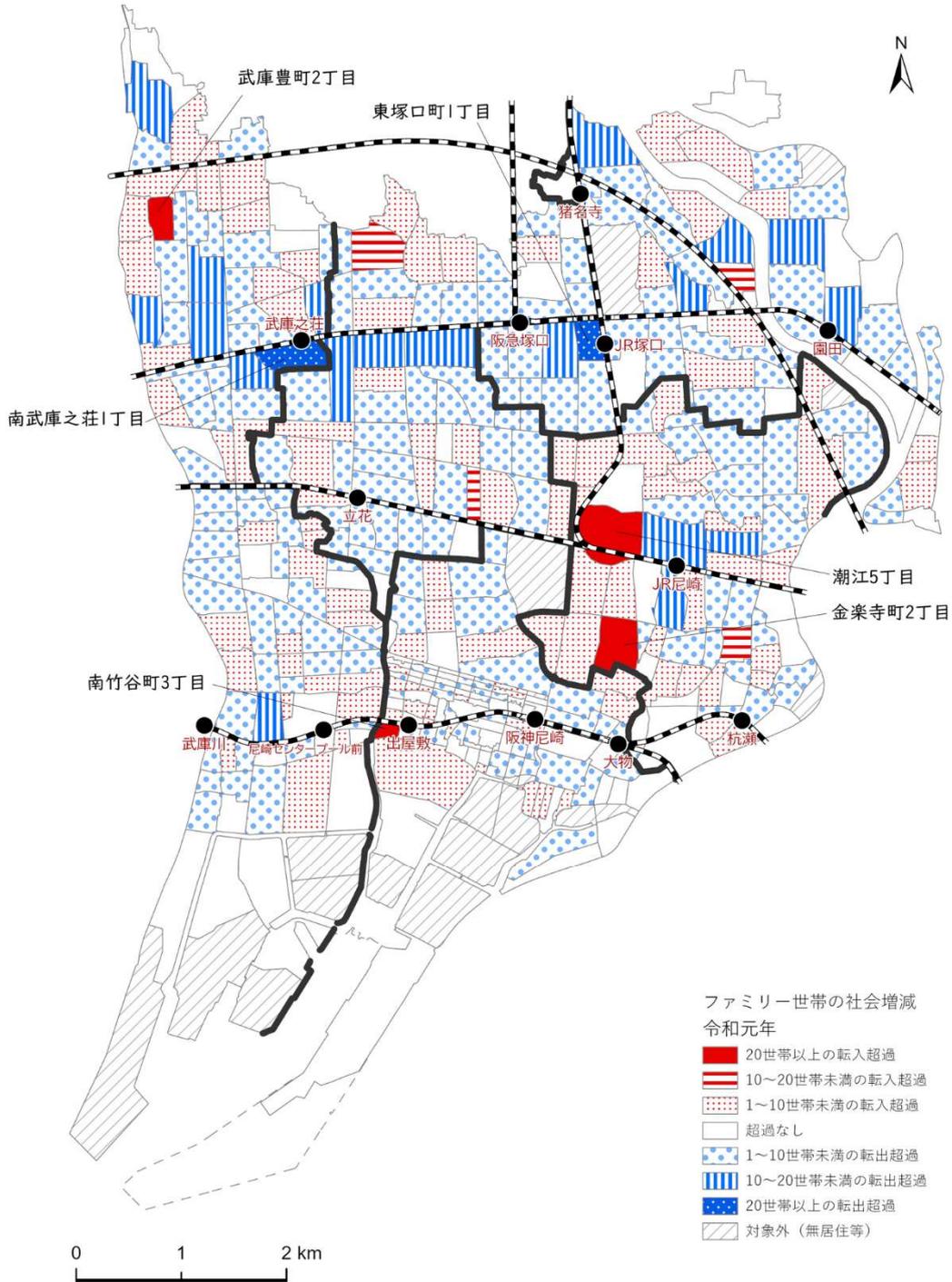
（注2）4世帯以下の町丁目は、上位5位内でも省略

町丁目別 ファミリー世帯の社会増減（平成30年）



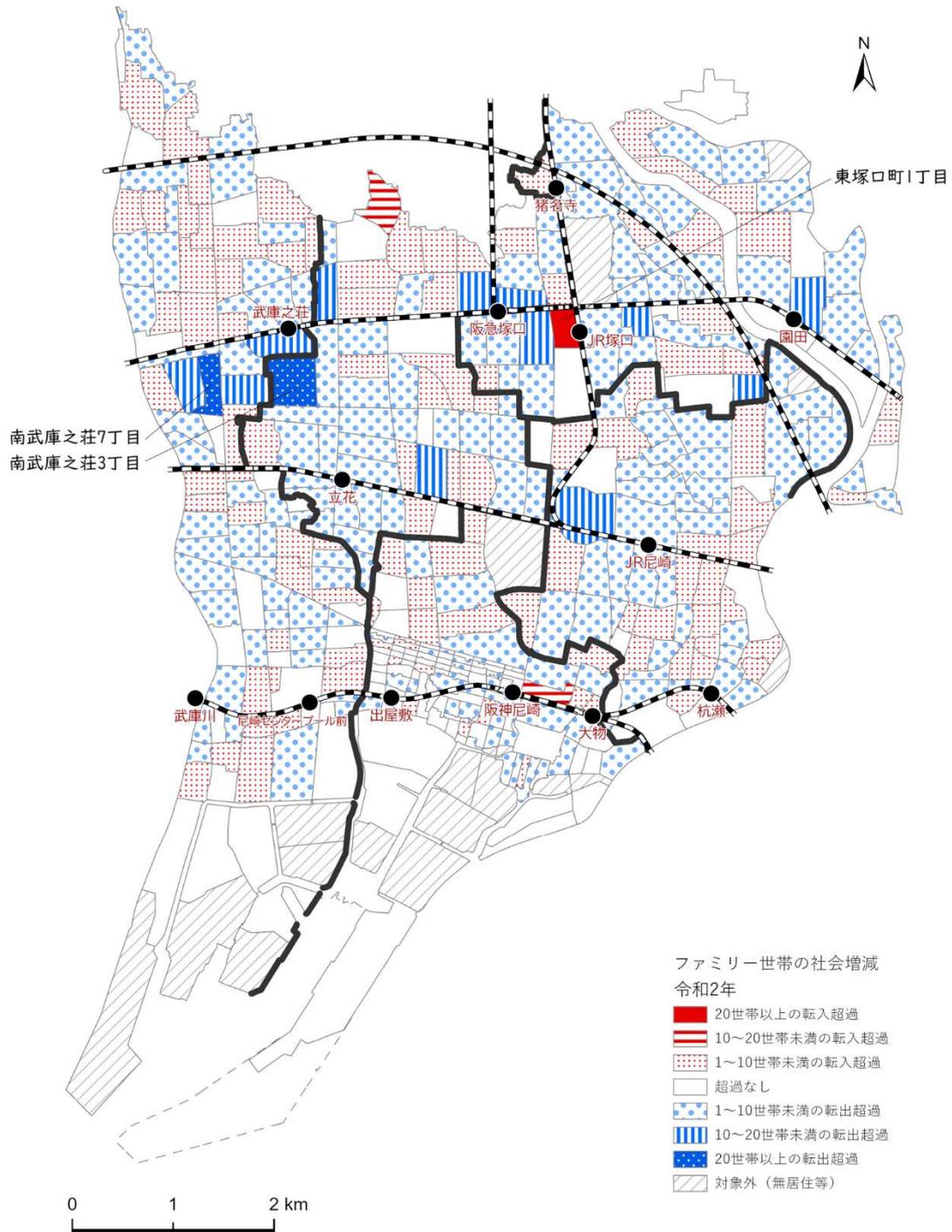
資料：尼崎市都市政策課

町丁目別 ファミリー世帯の社会増減（令和元年）



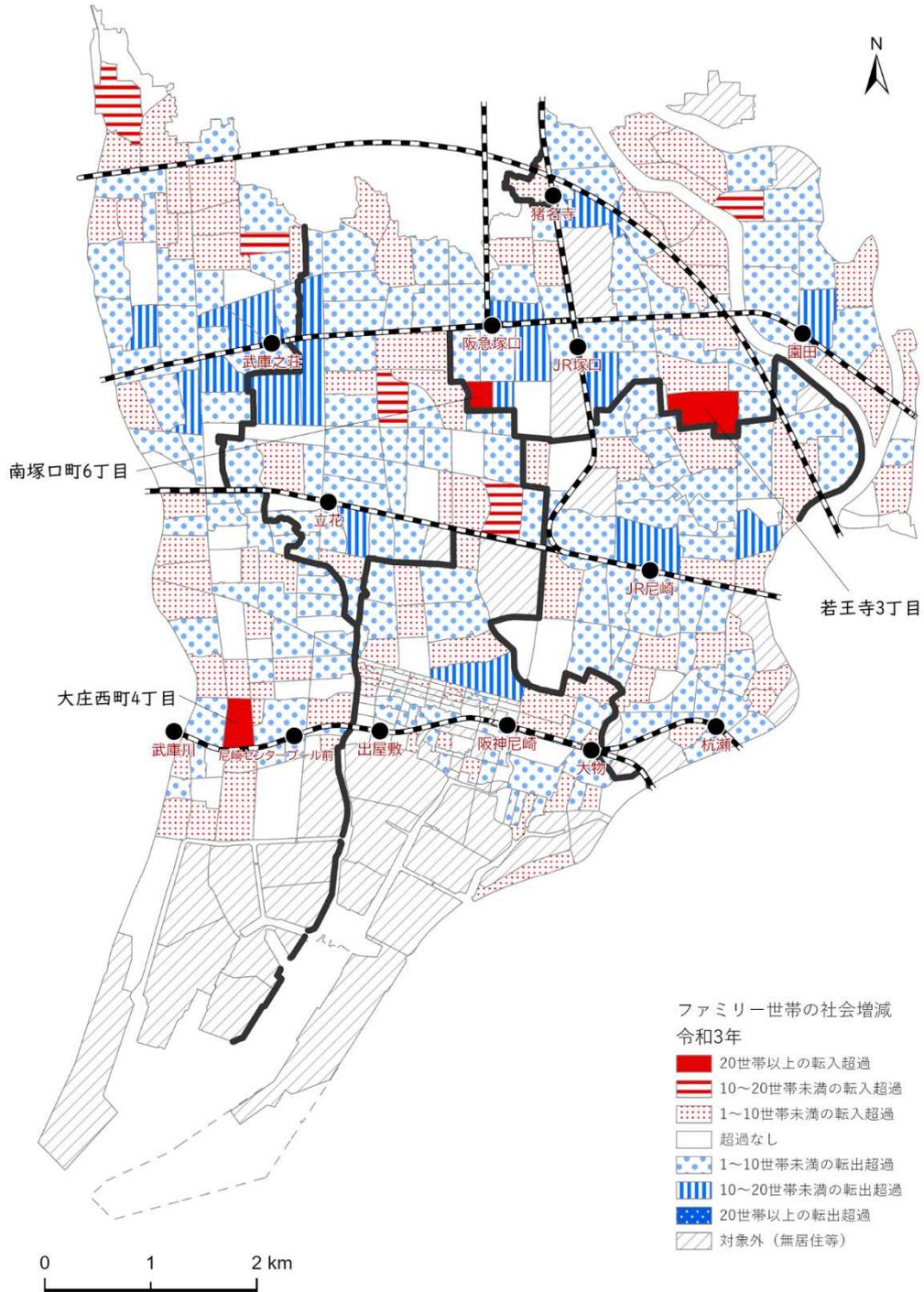
資料：尼崎市都市政策課

町丁目別 ファミリー世帯の社会増減（令和2年）



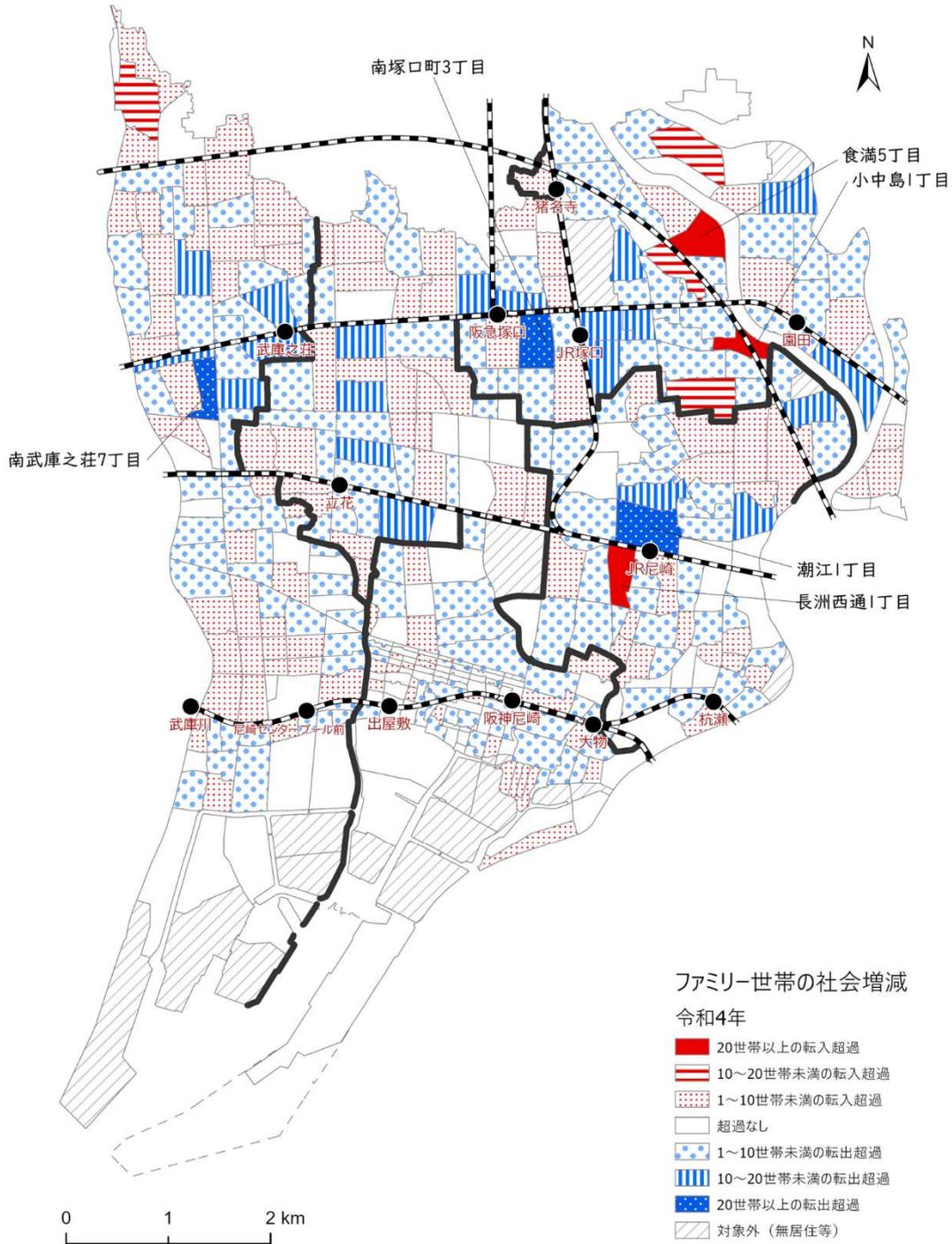
資料：尼崎市都市政策課

町丁目別 ファミリー世帯の社会増減（令和3年）



資料：尼崎市都市政策課

町丁目別 ファミリー世帯の社会増減（令和4年）



資料：尼崎市都市政策課

IV 尼崎市の人口の動向—令和2年国勢調査を中心に

1 人口構成の変化と少子化

(1) 人口構成

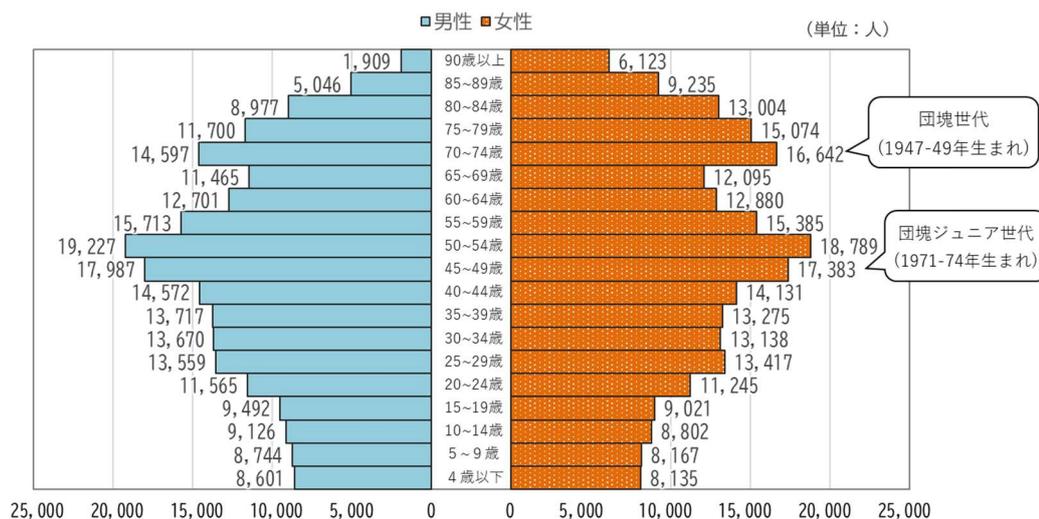
令和2年国勢調査による尼崎市の人口は458,309人であり、人口ピラミッドをみると、低出生率、低死亡率のつぼ型をしている。

年齢階級別にみると、男性では50～54歳（19,227人）、45～49歳（17,987人）、55～59歳（15,713人）の順で多く、女性では50～54歳（18,789人）、45～49歳（17,383人）、70～74歳（16,642人）の順が多い。男女とも、団塊のジュニア世代（46～49歳）よりも上の50～54歳が最も多い点が特徴的である。

40～44歳以下の年齢階級別人口は、年齢が下がるほど少ない傾向があり、20～24歳は22,810人、15～19歳は18,513人、4歳以下は16,736人となっている。

また、全市の人口性比（女性100人に対する男性の数）は94.2となっており、男性が少ない。

尼崎市の人口ピラミッド（令和2年）



資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所（日本の地域別将来推計人口）
※令和2年10月1日現在の人口

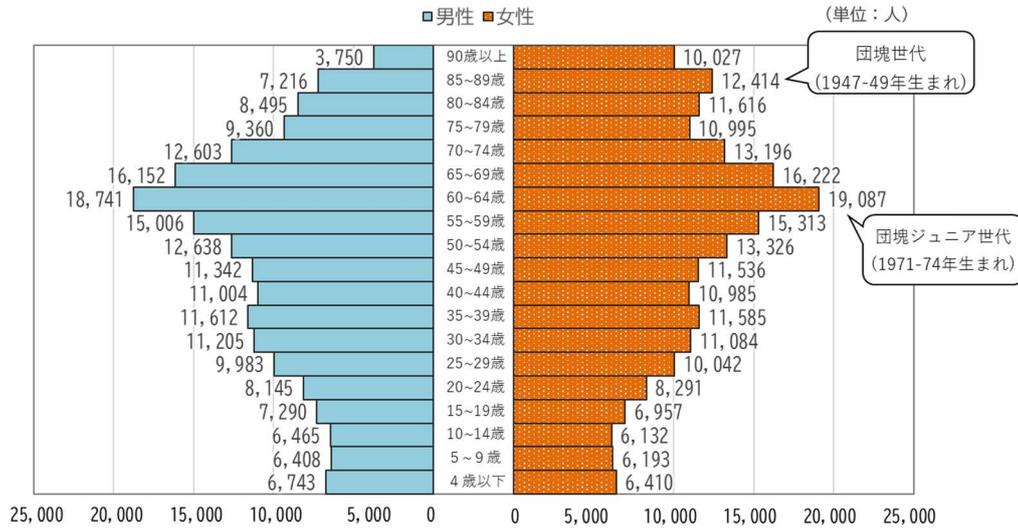
将来推計値による全市の人口をみると、令和17年は405,569人で、令和2年より約53,000人減少、令和27年は376,112人で、令和2年より約82,000人減少すると推計されている。

将来推計値に基づく人口ピラミッドをみると、年少人口（0～14歳人口）は、令和2年と比較して令和17年推計値では約13,000人、令和27年推計値では約16,000人減少すると推計されており、ピラミッドの裾はより狭くなっている。

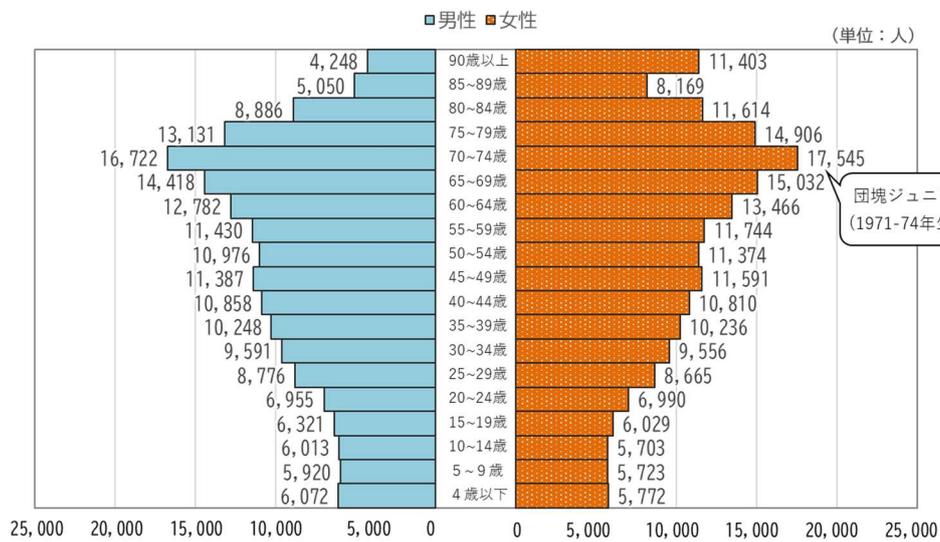
また、39歳以下の若年層に注目すると、令和17年推計値では35～39歳が最多の23,197人、令和27年推計値でも35～39歳が最多で20,484人となっている。令和2年に45～54歳の人口の多くが、令和17年には老年人口（65歳以上）となる一方で、この世

代を支える生産年齢人口（15～64歳）、特に若年層がさらに減少すると予想されている。

尼崎市の人口ピラミッド（令和17年、推計値）



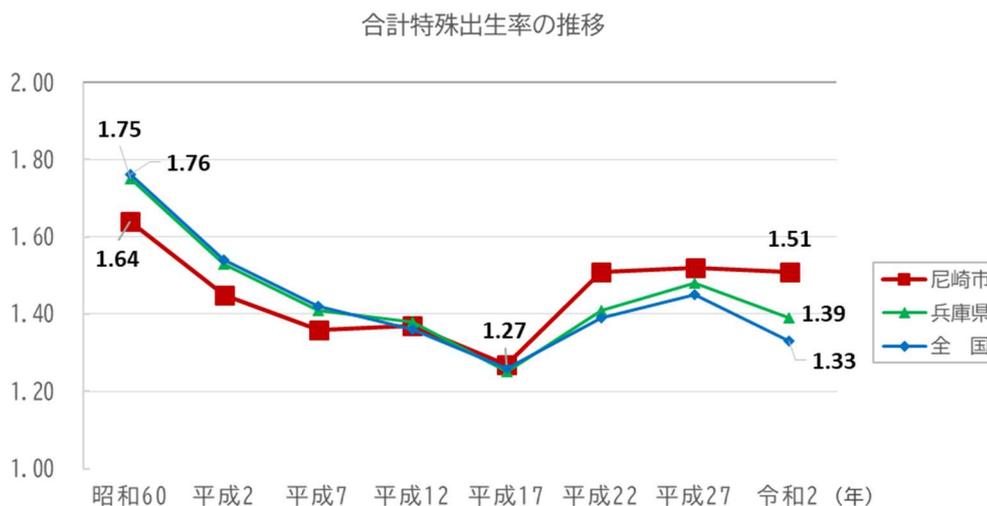
尼崎市の人口ピラミッド（令和27年、推計値）



(2) 出生率

①合計特殊出生率

尼崎市の合計特殊出生率（15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が一生の間に生む子どもの数に相当する。）は、昭和60年は1.64で、兵庫県の1.75、全国の1.76を下回っていた。平成17年には1.27まで低下したが、平成22年に1.51に上昇した後は、ほぼ横ばいで推移し、令和2年も1.51となっている。また、平成17年以降は、兵庫県、全国の合計特殊出生率を上回っている。



資料：兵庫県（国勢調査及び人口動態統計調査）

合計特殊出生率

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
尼崎市	1.64	1.45	1.36	1.37	1.27	1.51	1.52	1.51
兵庫県	1.75	1.53	1.41	1.38	1.25	1.41	1.48	1.39
全国	1.76	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45	1.33

資料：兵庫県（国勢調査及び人口動態統計調査）

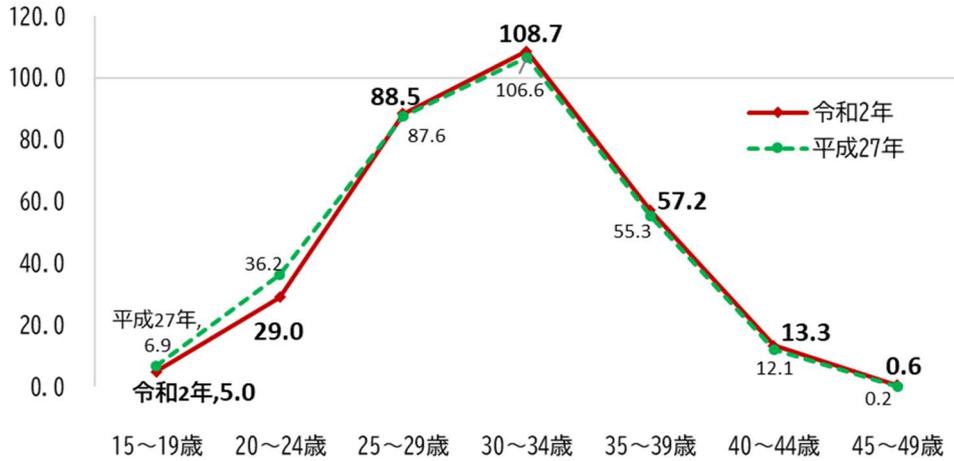
※平成7年以前は国勢調査による総人口（外国人を含む）。平成12年以降は年齢・国籍不詳を按分した日本人人口による。

②女性の年齢階級別出生率

尼崎市の女性の年齢階級別の出生率をみると、令和2年は、30～34歳が108.7（女性人口1,000人当たり）と最も高く、次いで、25～29歳が88.5、35～39歳が57.2の順で高くなっている。

令和2年の年齢階級別出生率を平成27年と比較すると、25歳以上では各年齢階級とも平成27年を上回っているものの、20～24歳は29.0となり7.2ポイント低下、15～19歳で5.0となり1.9ポイント低下しており、若い世代での出生率が低下している。

女性の年齢階級別出生率



資料：国勢調査及び人口動態統計調査・尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

女性の年齢階級別出生率及び合計特殊出生率

平成27年	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	合計特殊出生率
年齢階級別出生率	6.9	36.2	87.6	106.6	55.3	12.1	0.2	1.52
女性人口	9,252	10,130	11,682	13,203	14,914	18,114	16,049	
出生数	64	367	1,023	1,407	824	220	3	
令和2年	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	合計特殊出生率
年齢階級別出生率	5.0	29.0	88.5	108.7	57.2	13.3	0.6	1.51
女性人口	8,561	10,723	12,101	12,035	12,946	14,464	17,859	
出生数	43	311	1,071	1,308	741	193	10	

資料：国勢調査、人口動態統計調査、兵庫県「合計特殊出生率」、兵庫県保健統計年報

※女性の年齢階級別出生率（千人当たり）＝（ある年齢階級の母が1年間に生んだ子の数）÷（10月1日現在における日本人女性のある年齢階級の人口）×1,000。

※合計特殊出生率は、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率（母の年齢別出生数÷年齢別女性人口）の合計。ここでは各歳人口の代わりに年齢5歳階級別人口をもとに算出したため、年齢階級別の出生率を5倍した数値を合計している。

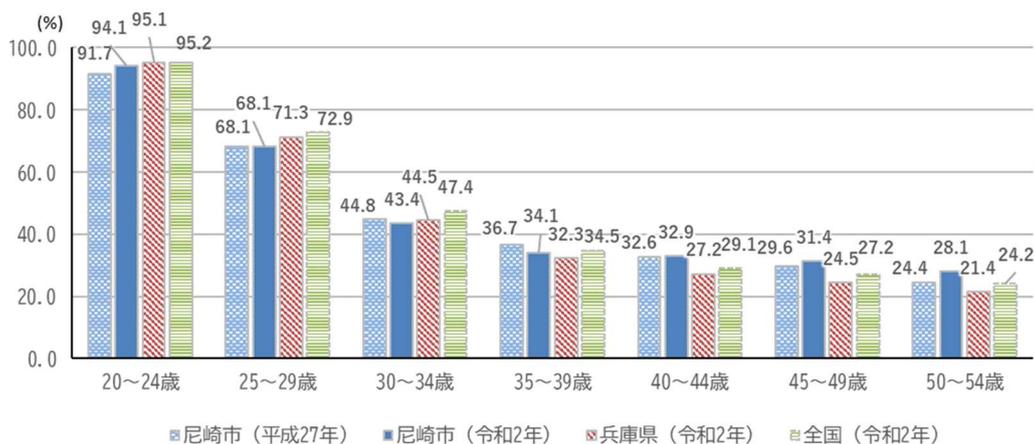
(3) 未婚率

本市の令和2年における20～54歳の未婚率をみると、男性は、20～24歳で94.1%、25～29歳で68.1%、30～34歳で43.4%と、年齢が上がるごとに低下し、35歳以上では30%前後となっている。また、40歳以上は、兵庫県、全国を上回っている。

女性は、20～24歳は91.8%、25～29歳で60.4%、30～34歳で36.0%となり、35歳以上では3割を下回る。30歳以上は全国、兵庫県を上回っている。

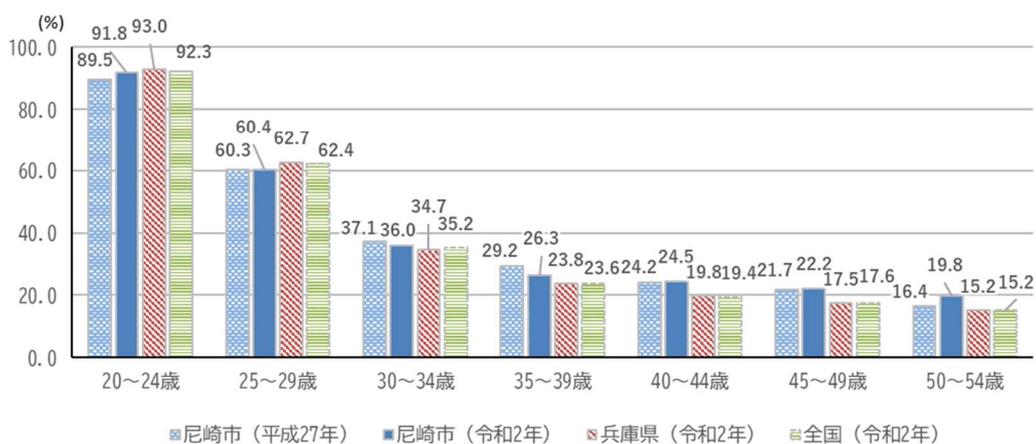
平成27年と比較すると、男性は、20～24歳で2.4ポイント、40歳代以上で0.3～3.7ポイント上昇し、30歳代では1.4～2.6ポイント低下している。女性は、30歳代で1.1～2.9ポイント低下しているが、20歳代は0.1～2.3ポイント上昇している。

未婚率の推移（男性）



資料：総務省「国勢調査」

未婚率の推移（女性）



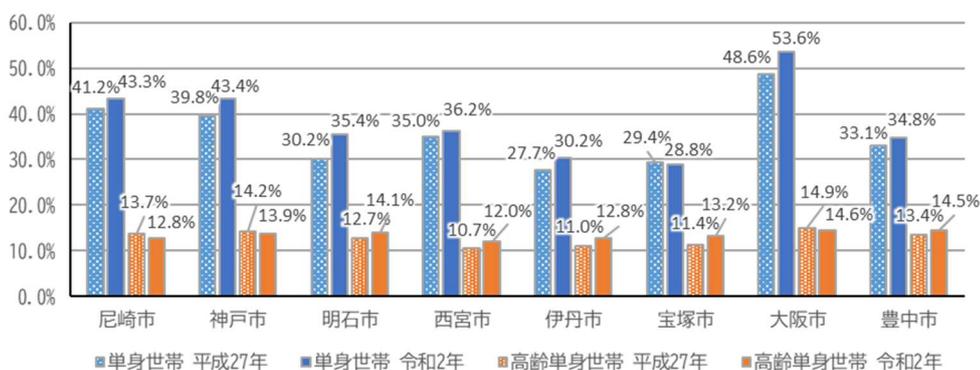
資料：総務省「国勢調査」

2 単身世帯及び高齢単身世帯の動向

令和2年の本市における単身世帯は95,671世帯で、構成比は平成27年の41.2%より2.1ポイント上昇して43.3%となり、近隣市では大阪市、神戸市に次いで高くなっている。

また、令和2年の本市における高齢単身世帯は28,198世帯となり、構成比は平成27年の13.7%より0.9ポイント低下して12.8%となり、近隣市では西宮市に次いで低く、伊丹市と同水準である。

単身世帯及び高齢単身世帯の構成比



資料：総務省「国勢調査」

	令和2年					平成27年		変化 (H27-R2)	
	世帯	単身世帯		高齢単身世帯		単身世帯	高齢単身世帯	単身世帯	高齢単身世帯
	(実数)	(実数)	(%)	(実数)	(%)	(%)	(%)		
尼崎市	221,148	95,671	43.3	28,198	12.8	41.2	13.7	2.1	▲ 0.9
神戸市	734,091	318,372	43.4	101,752	13.9	39.8	14.2	3.6	▲ 0.3
明石市	133,488	47,314	35.4	18,784	14.1	30.2	12.7	5.2	1.4
西宮市	215,454	78,102	36.2	25,821	12.0	35.0	10.7	1.2	1.3
伊丹市	82,384	24,916	30.2	10,572	12.8	27.7	11.0	2.5	1.8
宝塚市	95,366	27,457	28.8	12,579	13.2	29.4	11.4	▲ 0.6	1.8
大阪市	1,464,615	784,785	53.6	213,260	14.6	48.6	14.9	5.0	▲ 0.3
豊中市	176,759	61,489	34.8	25,642	14.5	33.1	13.4	1.7	1.1

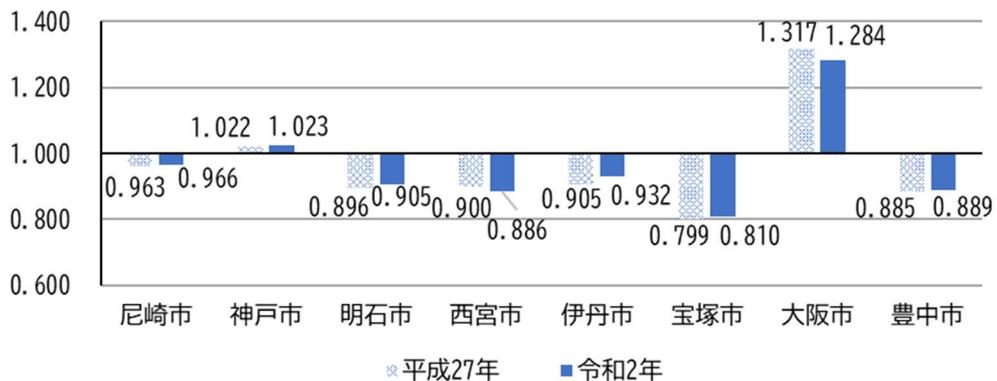
資料：国勢調査

3 昼夜間人口比率

令和2年における本市の昼夜間人口比率※は0.966であり、通勤等による市外への流出人口が市内への流入人口を上回っている。近隣市のなかでは、本市は、大阪市(1.284)、神戸市(1.023)に次いで高く、通勤等による流入人口が比較的多い。

また、本市において令和2年(0.966)は、平成27年(0.963)と比べると0.003ポイント上昇しており、伊丹市(0.027ポイント)や宝塚市(0.011ポイント)、明石市(0.009ポイント)と比べると、上昇幅が小さくなっている。

昼夜間人口比率の推移



資料：総務省「国勢調査」

※ 昼夜間人口比率は、昼間人口（常住人口から通勤・通学による市外への流出人口を差し引き、通勤・通学による市外からの流入人口を加えた人口）を夜間人口（常住人口）で除したものである。1を超える場合、流入人口が流出人口を上回ることを意味する。

